

(様式第 10)

香大医医第 35 号
令和元年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人香川大学
学長 寛 善

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学 学長 寛 善

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話(087)898-5111
-----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 脳神経内科	2 腫瘍内科	3 形成外科	4 病理診断科	5 リハビリテーション科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	0床	0床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	222人	183人	391.5人	看護補助者	62人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	8人	11.3人	理学療法士	11人	臨床検査技師	41人
薬 剤 師	42人	4人	46人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人	その他	0人
助産師	50人	1人	50.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	614人	40人	648.2人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	24人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	73人
管理栄養士	7人	1人	8人	診療放射線技師	33人	その他の職員	17人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	42人	眼科専門医	13人
外科専門医	33人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	20人
泌尿器科専門医	9人	麻酔科専門医	17人
産婦人科専門医	7人	救急科専門医	10人
		合 計	222人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田宮 隆) 任命年月日 令和元年10月1日

平成26年4月1日～平成29年9月30日(3年6ヶ月) 医療安全管理部長
 平成28年9月14日～平成29年9月30日(0年11ヶ月) 医療安全管理責任者

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	484.1人	4.4人	488.5人
1日当たり平均外来患者数	924.4人	56.5人	980.9人
1日当たり平均調剤数			852.5剤
必要医師数			107人
必要歯科医師数			4人
必要薬剤師数			17人
必要(准)看護師数			282人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	753.4 m ²		病床数 31床 心電計 <input checked="" type="checkbox"/> ・無
			人工呼吸装置 <input checked="" type="checkbox"/> ・無 心細動除去装置 <input checked="" type="checkbox"/> ・無
			その他の救急生装置 <input checked="" type="checkbox"/> ・無 ペースメーカー <input checked="" type="checkbox"/> ・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 271.2m ² [移動式の場合] 台数 0台		病床数 19床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 71.7m ² [共用室の場合] 共用する室名		
化学検査室	93.3 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)
細菌検査室	161.7 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・微生物分類同定分析装置 MALDIバイオタイパー (ベックマン・コールター) ・MIC画像処理診断システム (栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)
病理検査室	392.0 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・密閉式自動固定包埋装置 ティッシュテック VIP6 (サクラファインテックジャパン VIP6-J0) ・術中迅速凍結切片作成装置 クリオスタット (サクラファインテックジャパン Polar D) ・自動免疫染色装置 Ventana Benchmark Ultra (ロシュ・ダイアグノスティックス)
病理解剖室	289.6 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ラミナーフロー式 感染防止対策型解剖台 (サクラファインテックジャパン KBH-LD2V)

研究室	79.8 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) なし	
講義室	481.0 m ²		室数 2室	収容定員 407人
図書室	1,672.0 m ²		室数 7室	蔵書数 137,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.9%	逆紹介率	75.5%
算出根拠 A: 紹介患者の数	10,142人		
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,126人		
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	981人		
D: 初診の患者の数	13,405人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院 院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
森脇 正	森脇法律事務所 所長・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
瓜生 幸子	がん患者会ネット ワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認め た者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/iryokansa/)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	2人
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 (画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	0人
水素ガス吸入療法 心肺停止後症候群(院外における心肺停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心肺停止が推定されるものに限る。)	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(切除が困難で進行性のもの又は術後に再発したものであって、原発部位が不明なもの又は治療法が存在しないもの、従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 肺癌患者に対して、遺伝子解析の基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	局所進行癌に対する集学的治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。			
医療技術名	脳死臓器提供下膵腎移植	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎不全を伴い血糖コントロール不良なI型糖尿病患者に対して、脳死臓器提供下に膵腎移植を行い、透析やインスリン投与から離脱し、予後延長が得られている。			
医療技術名	術前化学放射線治療を用いた膵癌治療	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 切除可能・切除境界型浸潤性膵癌患者に対して抗がん剤(S1)を併用した放射線治療を一定期間行った後に外科切除を施行している。これにより病理学的な完全切除が高率に得られており、生存率の向上に寄与する可能性がある。			
医療技術名	術後腸管に対するバルン内視鏡下ERCP	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 術後腸管に対するERCPは、これまで困難であったがバルン内視鏡によって容易になった。 しかし、バルン内視鏡を施行する施設は限定しており、現状ではハイボリュームセンターのみで行われている。			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下瘻孔形成術は、経消化管的に胆道ドレナージ膵膿瘍ドレナージを行う手技で専用のデバイスがなく手技も確立していると言えず、限定した施設のみで施行している。			
医療技術名	高度脈管浸潤肝癌に対する3DCRT併用肝動注リザーバー治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脈管浸潤を伴う肝癌は予後が短く、確立された治療法はないのが現状。放射線治療やリザーバー肝動注治療は限定された施設のみで可能な治療である。			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術			
医療技術名	多系統萎縮症における夜間呼吸障害の評価と治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ポリソムノグラフィーによる夜間呼吸障害の評価とそれに基づく非侵襲的人工呼吸装置の導入を行い、疾患の予後改善に寄与する。			
医療技術名	免疫性神経疾患におけるガンマグロブリン静注療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 重症筋無力症および視神経脊髄炎に対し、定期的なガンマグロブリン静注療法を行い、再発を予防している。			

医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 肝癌に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術			
医療技術名	高速ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	2,192人
当該医療技術の概要 高速ヘリカルCTによる3次元画像			
医療技術名	難治性多発筋炎・皮膚筋炎に対するリツキンマブ療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 多発筋炎・皮膚筋炎の難治例に対する予後改善を目的とする。多発筋炎・皮膚筋炎は多彩な臓器障害を合併し、ステロイドやシクロホスファミドによる免疫抑制療法でも治療抵抗性を示すことがあり、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	EBER in situ hybridization検査	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			
医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	119人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	96人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシュスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	113人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 両側鼠径ヘルニア手術を鏡視下に行っている。			
医療技術名	管外胆管切除術,肝管空腸吻合術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝外胆管切除再建を行った。			
医療技術名	腹腔鏡補助下Soava-伝田手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ヒルシュスプリング病手術を経肛門的に行った。			

医療技術名	BCR-ABL変異解析	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 慢性骨髄性白血病のBCR-ABL遺伝子変異の解析			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の循環、代謝を評価。			
医療技術名	小児急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 小児で最も多い白血病に対し層別化を行い治癒率の向上と晩期合併症の低下を目標とする。			
医療技術名	顔面神経麻痺形成手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 顔面神経麻痺に対するネットワーク型神経移植			
医療技術名	遊離皮弁術、遊離複合組織移植術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 顕微鏡下血管吻合を用いた組織移植			
医療技術名	リンパ管静脈吻合	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 スーパーマイクロサージャリー技術を用いたリンパ管静脈吻合によるリンパ浮腫治療			
医療技術名	漏斗胸手術	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 3Dシミュレーションにより胸郭変形を予測した漏斗胸手術			
医療技術名	ロボット支援下腎部分切除術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、複雑な腎腫瘍に対し、腎を全摘することなく部分切除する。			
医療技術名	ロボット支援下膀胱全摘除術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いて、膀胱癌に対し、膀胱全摘除術を行う。さらに、体腔内で代用膀胱作製などの尿路変向術も行う。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中MRI	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 手術室と同室に備え付けられたMRI装置により、患者を別室に移動することなく手術中にMRIを撮影することが出来る。術中MRI撮影により、主に脳腫瘍の摘出術において、手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法である。			

医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 手術による脳神経の損傷を避けるため、大脳皮質を脳表ないし経頭蓋的に電気刺激、または脳神経を直接電気刺激する。電気刺激に対する神経の反応を確認しながら手術を行うことで、神経損傷を未然に防ぐ。手術の安全性ならびに確実性の向上に寄与する。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 術中ナビゲーション装置により、腫瘍や病変の局在部位を手術中に確認する。また上記術中MRIの技術と組み合わせることで、腫瘍摘出術での残存腫瘍の部位をリアルタイムに把握できる。手術の安全性・確実性だけでなく、腫瘍の摘出率の向上にも極めて有用である。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍の手術において、病変は周囲脳との境界が不明瞭であり、目視で摘出範囲を決定するのが困難なことが多い。術前に投与されたアミノレブリン酸により腫瘍が蛍光標識される。腫瘍摘出の確実性を増すことができる。			
医療技術名	インドシアニングリーンを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中にインドシアニンググリーンを静脈投与し偏光顕微鏡で観察することで、脳血管の血行動態を術中に把握することができる。脳動脈瘤クリッピング術や血管吻合術において、確実な手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形は治療が困難な疾患である。液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動静脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			
医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期におけるrt-PAによる血栓溶解療法に反応しない症例に対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を物理的に再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等のトルコ鞍部の脳腫瘍手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に挿入された神経内視鏡を用いた手術である。神経内視鏡の使用により、従来の手術よりも遥かに良好な視野が得られ、侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	Pipeline Flex フローダイバーターシステムを用いた大型・巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 メッシュ状の筒型デバイスを脳動脈瘤のある動脈に留置し、母血管の血流を温存しつつ脳動脈瘤内部の血栓形成を促進する。遮断された脳動脈瘤入口部で内膜新生を誘引し、脳動脈瘤の破裂リスクを低減させる。			
医療技術名	経口腔的内視鏡下咽喉頭腫瘍切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 特殊な開口器、喉頭鏡を用いて内視鏡下に切除する。			
医療技術名	内視鏡補助下頭蓋底腫瘍摘出術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外切開を加えることなく、経鼻的・経口的に側頭下窩、頭蓋底の腫瘍を切除する。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	93人
当該医療技術の概要 多分割絞り(マルチリーフコリメータ)などを用いて、空間的又は時間的な放射線強度の調整を同一部位に対する複数方向からの照射について行うことで、三次元での線量分布を最適なものとする照射療法。3方向以上の照射角度から各門につき3種以上の線束強度変化をもつビームによる治療計画を逆方向治療計画法(インバースプラン)にて立案したもの。			

医療技術名	画像誘導放射線治療 (IGRT)	取扱患者数	142人
当該医療技術の概要 毎回の照射時に治療計画時と照射時の照射中心位置の三次元的な空間的再現性が5ミリメートル以内であることを照射室内で画像的に確認・記録して照射する治療。			
医療技術名	密封小線源治療 組織内照射 前立腺癌に対する永久挿入療法	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 前立腺組織内にヨウ素 125 粒子を挿入する療法。			
医療技術名	口腔がんにおける再建術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 口腔がん診療において欠損した組織を補う再建術を行うことで術後の機能障害をできるだけ軽減する。			
医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 歯を欠損した場合義歯やブリッジでの補強が必要であったが、インプラントを行うことにより天然歯と同様に咬合することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下の唾石摘出術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 大唾液腺に生じた唾石は、皮膚切開し唾液腺摘出が必要となったり口腔内を大きく切開し唾石を摘出することが必要であるが内視鏡を用いることで低侵襲となり小さな切除で唾石を摘出することが可能になる。			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 根光病巣は外科的に摘出され歯根端切除、逆根管充填術が行われるが臼歯部では視野の問題で対応がされず、摘出せざるを得なかった。しかし内視鏡を使用することで臼歯部についても保存し、以後の手術が可能となる。			
医療技術名	重症脳障害に対する体温管理療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心肺停止後症候群 (PCAS)、くも膜下出血 (SAH) 等の重症脳障害に対し、体温管理療法を行っている。			
医療技術名	PCASに対する体外循環式心肺蘇生法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 PCASに対し体外循環式心肺蘇生法を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	47
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症	28
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	8
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	13	60	再生不良性貧血	14
6	パーキンソン病	189	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	29
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	0
11	重症筋無力症	95	66	IgA 腎症	31
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	19
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	79	68	黄色靭帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靭帯骨化症	39
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	16
17	多系統萎縮症	26	72	下垂体性ADH分泌異常症	7
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	33
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	70
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	28
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	9
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	12
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10
34	神経線維腫症	18	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	2	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	74
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	43
42	結節性多発動脈炎	19	97	潰瘍性大腸炎	58
43	顕微鏡的多発血管炎	33	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	15	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	150	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	103	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	60	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	31	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	37	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113	筋ジストロフィー	18	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	2	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	55	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	10
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	53

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(一般 7対1)	・入退院支援加算1, 3
・特定機能病院入院基本料(精神 13対1)	・認知症ケア加算2
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・医師事務作業補助体制加算1	・救命救急入院料1
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料4
・看護職員夜間配置加算	・特定集中治療室管理料2
・看護補助加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・後発医薬品使用体制加算2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・がん性疼痛緩和指導管理料	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・がん患者指導管理料イ	・精密触覚機能検査
・がん患者指導管理料ロ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ハ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・検体検査管理加算(IV)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・胎児心エコー法
・外来放射線照射診療料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・ニコチン依存症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携計画策定料	・神経学的検査
・排尿自立指導料	・補聴器適合検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料1	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・冠動脈CT撮影加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・外傷全身CT加算

・心臓MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・乳房MRI撮影加算	・CAD/CAM冠
・小児鎮静下MRI撮影加算	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・センチネルリンパ節加算
・外来化学療法加算1	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・無菌製剤処理料	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・認知療法・認知行動療法1	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工中耳植込術
・医療保護入院等診療料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・口腔粘膜処置	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・レーザー機器加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・硬膜外自家血注入	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・人工腎臓	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・磁気による膀胱等刺激法	・胸腔鏡下弁形成術

・胸腔鏡下弁置換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的の中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の16に規定する手術)
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・輸血管管理料Ⅱ
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・補助人工心臓	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・歯周組織再生誘導手術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下肝切除術	・麻酔管理料(Ⅰ)
・生体部分肝移植術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算
・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術	・高エネルギー放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・同種死体腎移植術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・生体腎移植術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・膀胱水圧拡張術	・定位放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算

・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	12回
剖検の状況	剖検症例数 18例 / 剖検率 7.0%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ペーチェット病に関する調査研究	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科	400,000	(補委) 厚生労働省
スモンに関する調査研究	峠 哲男	健康科学	400,000	(補委) 厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科	204,000	(補委) 厚生労働省
医療機器の不具合用語集の維持管理及び利活用の在り方に関する研究	横井英人	医療情報部	3,750,000	(補委) 日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	鈴木 康之	消化器外科学	130,000	(補委) 日本医療研究開発機構
既存の診療情報と一体的に運用可能な症例登録システムの構築とアウトカム指標等の分析・利活用に関する研究	横井英人	医療情報部	130,000	(補委) 日本医療研究開発機構
早産児核黄疸の包括的診療ガイドラインの作成	日下 隆	小児科学	728,000	(補委) 日本医療研究開発機構
医薬品開発に利用できる疾患領域別データ標準の作成に関する研究	横井英人	医療情報部	470,000	(補委) 日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	山本 哲司	整形外科	199,680	(補委) 日本医療研究開発機構
革新的抗がんウイルス療法の実用化臨床研究	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,300,000	(補委) 日本医療研究開発機構
難治性血管炎診療のCQ解決のための多層的研究	土橋 浩章	血液・免疫・呼吸器内科学	187,200	(補委) 日本医療研究開発機構
MID-NETデータの特性解析及びデータ抽出条件・解析手法等に関する研究	横井 英人	医療情報部	2,850,000	(補委) 日本医療研究開発機構
橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズA	森 宏仁	消化器内科	2,205,000	(補委) 日本医療研究開発機構
消化管間葉系腫瘍(GIST)の診断用血清miRNAキットの開発	藤田 浩二	消化器内科	1,200,000	(補委) 日本医療研究開発機構
新規空調設備を有する手術室建造の有用性に関する研究	臼杵 尚志	手術部	1,300,000	(補委) 文部科学省
誘導γδT細胞を用いたがん化学療法腸管免疫療法の開発	今滝 修	血液内科	910,000	(補委) 文部科学省
アトピー性皮膚炎における自然免疫低下のメカニズムの解明と治療	中井 浩三	皮膚科	1,040,000	(補委) 文部科学省
放射線肺臓炎の新たな予測方法の開発	高橋 重雄	放射線治療科	1,300,000	(補委) 文部科学省
最大筋収縮時磁気刺激法の作用機序の解明と臨床応用に関する研究	峠 哲男	健康科学	390,000	(補委) 文部科学省
加齢、メタボリック症候群及び発癌におけるmiR-301aの機能解析	藤田 浩二	消化器内科	1,170,000	(補委) 文部科学省
肝細胞癌におけるGal-9のエクソソームを標的とした治療戦略のための基礎的研究	正木 勉	消化器・神経内科学	910,000	(補委) 文部科学省
パーキンソン病の睡眠障害が夜間高血圧に及ぼす影響	出口 一志	消化器・神経内科学	780,000	(補委) 文部科学省
転写因子PREBトランスジェニックマウス解析結果を用いた生活習慣病改善戦略	井町 仁美	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	1,170,000	(補委) 文部科学省
ヒトの生後早期における抗酸化作用を有するビリルビンと脂肪酸消費率の変動の関連性	日下 隆	小児科学	650,000	(補委) 文部科学省
薬物のヒト血清アルブミンからのビリルビン遊離作用の研究	岡田 仁	小児科学	780,000	(補委) 文部科学省
アルツハイマー病と血液脳関門不全の関連について小動物用MRIを用いた研究	中村 祐	精神神経医学	1,430,000	(補委) 文部科学省
核酸代謝および低酸素イメージングを用いた脳腫瘍の治療戦略に関する研究	山本 由佳	放射線医学	1,560,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
核酸誘導体を用いた頭頸部癌のPET分子イメージング研究	西山 佳宏	放射線医学	1,560,000	(補委) 文部科学省
オルファン型核内レセプターNR4A1に対する新規リガンドの膀胱癌治療への応用	田岡 利直也	泌尿器科学	1,040,000	(補委) 文部科学省
がん化学療法中の制吐剤定期的時間差療法と光療法を利用した制吐療法の開発	植村 麻希子	血液・免疫・呼吸器内科学	1,040,000	(補委) 文部科学省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法及び新規治療薬の治療効果判定方法の確立	中村 信嗣	小児科	1,170,000	(補委) 文部科学省
新生児期の低酸素性虚血による多臓器障害の病態生理と治療に関する研究	久保 裕之	小児外科学	1,170,000	(補委) 文部科学省
肝細胞癌に対する降圧薬テルミサルタンの抗腫瘍効果とそのメカニズムの基礎的検討	豊田 由花	消化器・神経内科学	1,300,000	(補委) 文部科学省
高齢者使用に関する医薬品情報収集・提供の現状分析と今後のあり方に関する研究	池田 正行	医療情報部	1,560,000	(補委) 文部科学省
エクソソーム内microRNAを用いた非アルコール性脂肪性肝疾患の予後予測法開発	米山 弘人	消化器・神経内科学	910,000	(補委) 文部科学省
非アルコール性脂肪性肝炎進展を抑制するガレクチン9を制御するマイクロRNAの同定	森下 朝洋	消化器・神経内科学	1,950,000	(補委) 文部科学省
PET画像再構成アルゴリズムがフラクタル次元へ与える影響についての研究	前田 幸人	放射線部	1,430,000	(補委) 文部科学省
脳循環酸素代謝変化を指標とした新しい新生児蘇生法の確立	近藤 園子	小児科学	650,000	(補委) 文部科学省
ビリルビン代謝と脳血管内皮の機能的成熟評価による早産児核黄疸予防の基礎的検討	岩瀬 孝志	小児科	1,300,000	(補委) 文部科学省
重症壊死性腸炎に対する希少糖生理作用の解明と新規予防的治療方法への展開	下野 隆一	小児外科学	1,690,000	(補委) 文部科学省
新規アデニン類似体コアクローリンによる線維化進展抑制機構の解明－強皮症をモデルに－	窪田 泰夫	皮膚科学	1,690,000	(補委) 文部科学省
PTPE前後における新たな肝予備能評価法の開発	佐野村 隆行	放射線医学	1,040,000	(補委) 文部科学省
IMRTなど高精度放射線治療に適用する呼吸停止下照射システムの開発に関する研究	柴田 徹	放射線治療科	650,000	(補委) 文部科学省
D-アロース多段階使用による膵島移植成績向上の研究	鈴木 康之	消化器外科学	1,560,000	(補委) 文部科学省
非小細胞肺癌CSC特異マーカーの同定及び肺癌根治療法の開発	劉 大革	呼吸器・乳腺内科学	1,430,000	(補委) 文部科学省
肺移植後慢性拒絶反応に対するヘパリン徐放ゼラチンハイドロゲルを用いた治療法の開発	垂水 晋太郎	呼吸器・乳腺内科学	1,950,000	(補委) 文部科学省
ラット脳出血モデルにおけるDFX治療の至適用法・容量の検討	岡内 正信	脳神経外科学	650,000	(補委) 文部科学省
早期前立腺癌に対する監視療法の精度を高めるためのmpMRIプロトコルの確立	杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	1,170,000	(補委) 文部科学省
内耳(内リンパ嚢、血管条)におけるイオン輸送および制御機構の研究	宮下 武憲	耳鼻咽喉科学	1,820,000	(補委) 文部科学省
アルドステロンによる網膜神経節細胞死のメカニズムの解明	廣岡 一行	眼科学	1,820,000	(補委) 文部科学省
新規希少糖の口腔内常在性菌に対する作用の研究	小川 尊明	歯・顎・口腔外科	650,000	(補委) 文部科学省
子宮頸癌における軟性内視鏡(拡大観察・狭帯域光観察)の有用性	大森 典子(西山)	内視鏡診療部	2,600,000	(補委) 文部科学省
血清中マイクロRNAを用いた炎症性腸疾患に対する疾患鑑別および病勢判定の確立	谷内田 達夫	総合内科	1,820,000	(補委) 文部科学省
深層学習と意味解析を組み合わせた臨床研究データを標準化する手法の開発	西本 尚樹	臨床研究支援センター	1,300,000	(補委) 文部科学省
認知症における脈絡叢を介した尿酸の脳内移行の影響について	植村 直哉	麻酔学	1,170,000	(補委) 文部科学省
がん骨転移病変における血液凝固能の状態とfibrocyteが与える骨形成効果	内田 俊平	救命救急センター	650,000	(補委) 文部科学省
免疫調節物質ガレクチン-9を用いたIgA腎症の病態解明	守時 政宏	循環器・腎臓・脳卒中内科学	1,690,000	(補委) 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
18F-FLT PETを用いた心サルコイドーシスの活動性評価に関する研究	則兼 敬志	放射線診医学	1,430,000	補委	文部科学省
微小振動子による定量的触覚検査法の確立と末梢神経障害の早期発見への応用	檀上 淳一	精神神経科	1,820,000	補委	文部科学省
グリオーマにおける(プロ)レニン受容体をターゲットとした新規分子治療の研究	田宮 隆	脳神経外科学	5,850,000	補委	文部科学省
メタボローム解析による膵癌術前化学放射線療法における治療抵抗性の病態解明	岡野 圭一	消化器外科	1,950,000	補委	文部科学省
原発性胆汁性胆管炎におけるエクソソーム内のmicroRNAを標的とした予後予測	野村 貴子	消化器内科	2,860,000	補委	文部科学省
去勢抵抗性前立腺癌の骨転移治療における骨転移定量評価を目指す研究	田中 賢一	放射線診断科	1,430,000	補委	文部科学省
ウイルス療法と腸内細菌叢制御を統合した造血器腫瘍の新規免疫療法	門脇 則光	血液・免疫・呼吸器内科学	1,300,000	補委	文部科学省
脂肪毒性のメカニズムの解明と膵β細胞の機能改善への治療戦略	村尾 孝児	内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学	1,820,000	補委	文部科学省
FGF徐放ゼラチンヒーズとポリグリコール酸シートを用いた新しい肺気腫治療	松浦 奈都美	呼吸器外科	1,430,000	補委	文部科学省
非抗原性ブタ気管細胞外マトリックスを用いた異種気道手術材料の開発	呉 哲彦	呼吸器外科	1,040,000	補委	文部科学省
ヤマカガシ咬傷に抗毒素の代替薬としてのトロンボモジュリン製剤の効果の検討	一二三 亨	救命救急センター	2,470,000	補委	文部科学省
(p)RRを抑制するmicroRNAはグリオーマの腫瘍形成能を失わせるか？	小川 大輔	脳神経外科	1,300,000	補委	文部科学省
HSP阻害剤に対する防衛的オートファジーの制御による骨軟部肉腫の新たな治療戦略	山本 哲司	整形外科	1,950,000	補委	文部科学省
移植腎病理レジストリ構築を介した腎移植後IgA沈着症予後予測の試み	祖父江 理	腎臓内科	1,300,000	補委	文部科学省
PET画像と循環腫瘍細胞モニタリングを組み合わせた遠隔転移と治療効果予測法の確立	星川 広史	耳鼻咽喉科学	1,560,000	補委	文部科学省
Adipose tissue flap creation in an in vivo Tissue Engineering Chamber in rabbit	田中 嘉雄	形成外科学	2,470,000	補委	文部科学省
歯エナメル質生体EPR被曝線量測定装置の開発	三宅 実	歯科口腔外科学	2,730,000	補委	文部科学省
生活習慣病薬による大腸癌の抗腫瘍作用：新規化学予防薬としての降圧薬ARBの関与	小原 英幹	消化器内科	1,820,000	補委	文部科学省
漏斗胸に対するプレート矯正治療に伴う、脊椎の彎曲を予測する診断システムの開発	永竿 智久	形成外科学	1,690,000	補委	文部科学省
医療安全のための座位心臓超音波検査法開発とフレイル・要介護者の心機能評価への応用	舩形 尚	総合内科	1,170,000	補委	文部科学省
超音波内視鏡下穿刺吸引術で得た腫瘍組織miRNAの網羅的解析から導かれる病態解明	加藤 清仁	消化器内科	2,340,000	補委	文部科学省
新たな心拍変動解析法による低出生体重児の発達予後予測	加藤 育子	小児科	2,470,000	補委	文部科学省
ガレクチン-9の膵癌細胞抑制機構に関連するエクソソームmicroRNA	坂本 鉄平	消化器内科	2,210,000	補委	文部科学省
血清マイクロRNAを用いた慢性C型肝炎SVR症例の予後予測法開発	田所 智子	消化器内科	2,340,000	補委	文部科学省
電解質・体液バランスから見た慢性腎臓病の筋萎縮のメカニズムの解明と治療法の開発	山崎 大輔	腎臓内科	1,820,000	補委	文部科学省
ICGエアロゾルによる肺癆部位同定方法の研究	横田 直哉	呼吸器外科	1,820,000	補委	文部科学省

計 83 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine	Anticancer Res. 38(4):2007-2014	Anticancer Res. 38(4):2007-2014	Original Article
2	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine	Intern Med 15;57(22):3289- 3292	Intern Med 15;57(22):3289-3292	Original Article
3	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine	Ther Clin Risk Manag 14:1361- 1368	Ther Clin Risk Manag 14:1361- 1368	Original Article
4	Kanaji N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine	Intern Med 1;58(3):419-422	Intern Med 1;58(3):419-422	Original Article
5	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine	Oxf Med Case Reports 2018(10):omy048	Oxf Med Case Reports 2018(10):omy048	Original Article
6	Kadowaki N	Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine	Rinsho Ketsueki 59(10):1942-1947	Rinsho Ketsueki 59(10):1942-1947	Original Article
7	Watanabe N	Department of Internal Medicine, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine	BMC Pulm Med 18(1):176	BMC Pulm Med 18(1):176	Original Article
8	Imataki O	the Division of Hematology, Department of Internal Medicine	Clin Nucl Med 0363-9762 44(2):e85-e86	Clin Nucl Med 0363-9762 44(2):e85-e86	Original Article
9	Kubo H	Division of Hematology, Department of Internal Medicine	Int J Clin Oncol 24(5):590-595	Int J Clin Oncol 24(5):590-595	Original Article
10	Imataki O	Division of Hematology, Department of Internal Medicine	Br J Haematol. 185(4):642	Br J Haematol. 185(4):642	Original Article
11	Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama C, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Enomoto M, Ishikawa T, Kashiwada T, Sugiyama M, Komatsu Y, Okuyama H, Baba E, Sakai D, Watanabe T, Tamura T, Yamashita K, Gosho M, Shimada Y.	Division of Gastroenterology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki, Japan	Oncologist 23(1):7- 15, 2018	Oncologist 23(1):7- 15, 2018	Original Article

12	Tsuchihashi K, Ito M, Moriwaki T, Fukuoka S, Taniguchi H, Takashima A, Kumekawa Y, Kajiwara T, Yamazaki K, Esaki T, Makiyama A, Denda T, Satake H, Suto T, Sugimoto N, Katsumata K, Ishikawa T, Kashiwada T, Oki E, Komatsu Y, Okuyama H, Sakai D, Ueno H, Tamura T, Yamashita K, Kishimoto J, Shimada Y, Baba E.	Department of Medicine and Biosystemic Science, Kyushu University Graduate School of Medical Sciences, Fukuoka, Japan.	Clin Colorectal Cancer 2018 Jul 29	Clin Colorectal Cancer 2018 Jul 29	Original Article
13	Lei Li	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Hypertens Res 2019 Volume 137, Issue 2, June 2018, Pages 220-223	Hypertens Res 2019 Volume 137, Issue 2, June 2018, Pages 220-223	Original Article
14	Kitamura H	From the Department of Anesthesiology (H.K., Y.S., T.A., G.S.) Department of Pharmacology (D.N., A.N.), Kagawa University,	Anesthesiology. 2018 Aug;129(2):296-310.	Anesthesiology. 2018 Aug;129(2):296-310.	Original Article
15	Nishiyama A	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Clin Exp Nephrol. 2018 Dec;22(6):1231-1239.	Clin Exp Nephrol. 2018 Dec;22(6):1231-1239.	Original Article
16	Zhang Y	Department of Pharmacology, Kagawa University Medical School, Kagawa, Japan	Kidney Int. 2018 Sep;94(3):524-535	Kidney Int. 2018 Sep;94(3):524-535	Original Article
17	Wan N	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Front Endocrinol (Lausanne). 2018 Jul 26;9:421	Front Endocrinol (Lausanne). 2018 Jul 26;9:421	Original Article
18	Nakano D	Department of Pharmacology, Kagawa University, Japan.	Kidney Int. 2018 Oct;94(4):650-652	Kidney Int. 2018 Oct;94(4):650-652	Original Article
19	Ansary TM	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Exp Physiol. 2018 Nov;103(11):1524-1531	Exp Physiol. 2018 Nov;103(11):1524-1531	Original Article
20	Wang J	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Br J Cancer. 2019 Jan;120(2):229-237	Br J Cancer. 2019 Jan;120(2):229-237	Original Article
21	Ansary TM	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan.	Int J Mol Sci. 2019 Feb 1;20(3). pii: E629	Int J Mol Sci. 2019 Feb 1;20(3). pii: E629	Original Article
22	Nishiyama A	Department of Pharmacology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan.	Hypertens Res. 2019 Mar;42(3):293-300.	Hypertens Res. 2019 Mar;42(3):293-300.	Original Article
23	Okabe Y	Department of Anesthesiology, Faculty of Medicine, Department of Hygiene, Faculty of Medicine, Department of Public Health, Faculty of Medicine	J Intensive Care 2018;6:44	J Intensive Care 2018;6:44	Original Article
24	Mitamura K.	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Ann Nucl Med. 2018 Nov;32(9):627-633.	Ann Nucl Med. 2018 Nov;32(9):627-633.	Original Article
25	Takami Y	Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Ann Nucl Med. 2018 Nov;32(9):634-641.	Ann Nucl Med. 2018 Nov;32(9):634-641.	Original Article
26	Takahashi S, Anada M, Kinoshita T, Shibata T	Department of Radiation Oncology, Kagawa University Hospital	Radiother Oncol. 2018 Sep;128(3):569-574	Radiother Oncol. 2018 Sep;128(3):569-574	Original Article

27	Takahashi S, Anada M, Kinoshita T, Nishide T, Shibata T	Department of Radiation Oncology, Kagawa University Hospital	Jpn J Radiol. 2019. Epub 2019 Jan 24	Jpn J Radiol. 2019. Epub 2019 Jan 24	Original Article
28	Takahashi S, Tarumi S, Nakano J, Fujiwara A, Anada M, Kinoshita T, Go T, Yokomise H, Shibata T	Department of Radiation Oncology, Kagawa University Hospital & Department of General Thoracic, Breast and Endocrine Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	Int Cancer Conf J. 2018 Jun 14;7(4):131-133	Int Cancer Conf J. 2018 Jun 14;7(4):131-133	Case report
29	Kadota K, Kushida Y, Kagawa S, Ishikawa R, Ibuki E, Inoue K, Go T, Yokomise H, Ishii T, Kadowaki N, Haba R	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	J Thorac Oncol. 2019 Feb;14(2):245-254. doi: 10.1016/j.jtho.2018.09.028. Epub 2018 Oct 15.	J Thorac Oncol. 2019 Feb;14(2):245-254. doi: 10.1016/j.jtho.2018.09.028. Epub 2018 Oct 15.	Original Article
30	Nakai Kozo	Department of Dermatology, Kagawa University, Miki, Japan.	J Dermatol 45, 1475-1477 (2018)	J Dermatol 45, 1475-1477 (2018)	Case report
31	Nakai Kozo	Department of Dermatology, Kagawa University, Miki, Japan.	In Vivo 33, 109-114 (2019)	In Vivo 33, 109-114 (2019)	Case report
32	Matsuoka Y	Department of Urology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Urol Case Rep. 2018 Sep 8;21:75-77	Urol Case Rep. 2018 Sep 8;21:75-77	Case report
33	Matsumoto A	Department of Neurological Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Acta Med Okayama. 2019 Feb;73(1):29-39	Acta Med Okayama. 2019 Feb;73(1):29-39	Original Article
34	Kobayashi T	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	Intern Med., 2019.2	Intern Med., 2019.2	case report
35	Dong T	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	Eur J Pharmacol. 2018 Nov	Eur J Pharmacol. 2018 Nov	Original Article
36	Sato S	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	Mol Endocrinol. 2018 Oct	Mol Endocrinol. 2018 Oct	Original Article
37	Fukunaga K	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2018 Dec	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2018 Dec	Original Article
38	Lyu J	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	J Lipid Res. 2018 Oct	J Lipid Res. 2018 Oct	Original Article
39	Yonezaki K	Department of Endocrinology and Metabolism, Departments of Diagnostic Pathology	J Med Case Rep. 2018 Jun 19	J Med Case Rep. 2018 Jun 19	case report
40	Fujihara R	Department of Orthopaedic Surgery, Kagawa University	Microsc Res Tech. 2018 Nov;81(11):1318-1324.	Microsc Res Tech. 2018 Nov;81(11):1318-1324.	Original Article
41	Fukuoka N	Department of Orthopaedic Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine	Anticancer Res. 2018 Sep;38(9):5177-5181	Anticancer Res. 2018 Sep;38(9):5177-5181	Original Article
42	Iwata K	Department of Orthopedic Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University	J Bone Miner Metab. 2019 Mar;37(2):206-211	J Bone Miner Metab. 2019 Mar;37(2):206-211	Original Article

43	Tsuno N, Mori T, Ishikawa I, Bando N, Park H, Matsumoto Y, Mori I, Tanaka M, Hirano T, Nakamura Y.	Department of Neuropsychiatry	Geriatr Gerontol Int. 2019 Jul;19(7):571-576. doi: 10.1111/ggi.13644. Epub 2019 Mar 12.	Geriatr Gerontol Int. 2019 Jul;19(7):571-576. doi: 10.1111/ggi.13644. Epub 2019 Mar 12.	Original Article
44	Mori T, Kikuchi T, Umeda-Kameyama Y, Wada-Isoe K, Kojima S, Kagimura T, Kudoh C, Uchikado H, Ueki A, Yamashita M, Watabe T, Nishimura C, Tsuno N, Ueda T, Akishita M, Nakamura Y; ABC Dementia Scale Study Group.	Department of Neuropsychiatry	Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2018 Mar 14;8(1):85-97. doi: 10.1159/000486956. eCollection 2018 Jan-Apr.	Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 2018 Mar 14;8(1):85-97. doi: 10.1159/000486956. eCollection 2018 Jan-Apr.	Original Article
45	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Dig Endosc 1: 25-31, 2018	Dig Endosc 1: 25-31, 2018	Original Article
46	Tadokoro T	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Intern Med 57: 1101-1104, 2018	Intern Med 57: 1101-1104, 2018	Case report
47	Kamada H	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of Gastroenterological Surgery	Can J Gastroenterol Hepatol 2018: 3983707, 2018	Can J Gastroenterol Hepatol 2018: 3983707, 2018	Original Article
48	Goda Y	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Minim Invasive Ther Allied Technol 27(6): 327-332, 2018	Minim Invasive Ther Allied Technol 27(6): 327-332, 2018	Original Article
49	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Hepatol Res 48: 499-501, 2018	Hepatol Res 48: 499-501, 2018	Original Article
50	Kobayashi N	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Dig Liver Dis 50(7):724, 2018	Dig Liver Dis 50(7):724, 2018	Case report
51	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Int J Mol Sci 19(7): E1940, 2018	Int J Mol Sci 19(7): E1940, 2018	Original Article
52	Tadokoro T	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Exp Ther Med 16: 1026-1028, 2018	Exp Ther Med 16: 1026-1028, 2018	Case report
53	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Oncotarget 9: 32054-32062, 2018	Oncotarget 9: 32054-32062, 2018	Original Article
54	Kobayashi N	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of Gastroenterological Surgery	Minim Invasive Ther Allied Technol 27: 203-208, 2017	Minim Invasive Ther Allied Technol 27: 203-208, 2017	Original Article
55	Fujita K	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	J Clin Med 7: E267, 2018	J Clin Med 7: E267, 2018	Original Article
56	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Dig Endosc 30: 800-801, 2018	Dig Endosc 30: 800-801, 2018	Case report
57	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	J Cancer Res Forecast 1(2), 2018	J Cancer Res Forecast 1(2), 2018	Original Article
58	Aoe S	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of General Medicine, Department of Health Sciences, Department of Health Sciences, Department of Gastroenterology and Neurology	Mult Scler Relat Disord 28: 165-166, 2018	Mult Scler Relat Disord 28: 165-166, 2018	Case report

59	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of Gastroenterological Surgery	J Gastroenterol Hepatol 34(1): 22-30, 2019	J Gastroenterol Hepatol 34(1): 22-30, 2019	Review
60	Morishita A	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Dig Endosc 31(1): e26-e27, 2019	Dig Endosc 31(1): e26-e27, 2019	Original Article
61	Kamada H	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of Gastroenterological Surgery	Endoscopy 51(1): E7-E9, 2019	Endoscopy 51(1): E7-E9, 2019	Original Article
62	Nishiyama N	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Dig Endosc 31(2): e42-e43, 2019	Dig Endosc 31(2): e42-e43, 2019	Case report
63	Yachida T	Department of Gastroenterology and Neurology, Department of General Internal Medicine	Digestion 25: 1-6, 2019	Digestion 25: 1-6, 2019	Original Article
64	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine	Surg Endosc 32(7): 3076-3086, 2018	Surg Endosc 32(7): 3076-3086, 2018	Original Article
65	Kishino T	Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University	Surg Case Rep. 2018 Jun 25;4(1):62.	Surg Case Rep. 2018 Jun 25;4(1):62.	Case report
66	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2019 Jun;28(3):194-197.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2019 Jun;28(3):194-197.	Original Article
67	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Kagawa University	Jpn J Clin Oncol. 2018 May 1;48(5):434-441.	Jpn J Clin Oncol. 2018 May 1;48(5):434-441.	Original Article
68	Htun Y, Nakamura S, Nakao Y, Mitsuie T, Nakamura M, Yamato S, Jinnai W, Koyano K, Ohta K, Morimoto A, Wakabayashi T, Sugino M, Fujioka K, Kato I, Kondo S, Yasuda S, Miki T, Ueno M, Kusaka T.	Graduate School of Medicine, faculty of Medicine, Kagawa University/Department of Pediatrics, faculty of Medicine, Kagawa University/Department of neonatology, national Hospital Organization Okayama Medical center/Division of neonatology, Shikoku Medical center for children and Adults/Maternal and Perinatal center, Kagawa University Hospital/Department of Anatomy and neurobiology, faculty of Medicine, Kagawa University/Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine/Department of Pathology and Host Defense, faculty of Medicine, Kagawa University	Sci Rep.2019	Sci Rep.2019	Original Article
69	Kuboi T, Kusaka T, Okada H, Arioka M, Nii K, Takahashi M, Yamato S, Sadamura T, Jinnai W, Nakano A, Itoh S.	Department of Neonatology, Shikoku Medical Center for Children and Adults /Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Pediatr Int.2019	Pediatr Int.2019	Original Article
70	Hata T, Kanenishi K, AboEllail MAM, Mori N, Koyano K, Kato I, Kusaka T.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine/ Department of Pediatrics, Kagawa University Graduate School of Medicine	J Perinat Med.2019	J Perinat Med.2019	Original Article

71	Hata T, Kanenishi K, Mori N, AboEllail MAM, Hanaoka U, Koyano K, Kato I, Kusaka T.	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University Graduate School of Medicine/ Department of Pediatrics, Kagawa University Graduate School of Medicine	J Perinat Med.2018	J Perinat Med.2018	Original Article
72	Okada H, Itoh S, Nii K, Sugino M, Fuke N, Koyano K, Yasuda S, Kusaka T.	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa/ Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa	J Photochem Photobiol B.2018	J Photochem Photobiol B.2018	Original Article
73	Okada H, Kawada K, Itoh S, Ozaki M, Kakutani I, Arai T, Koyano K, Yasuda S, Iwase T, Murao K, Kusaka T.	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University/Department of Clinical Laboratory, Kagawa University Hospital	Ann Clin Biochem. 2018	Ann Clin Biochem. 2018	Original Article
74	Jinnai W, Nakamura S, Koyano K, Yamato S, Wakabayashi T, Htun Y, Nakao Y, Iwase T, Nakamura M, Yasuda S, Ueno M, Miki T, Kusaka T	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan; Division of Neonatology, Shikoku Medical Center for Children and Adults/ Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University/ Maternal Perinatal Center, Faculty of Medicine, Kagawa University/ Department of Pathology and Host Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University/ Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University/ Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University	Brain Dev. 2018	Brain Dev. 2018	Original Article
75	Maezawa Y, Kato H, Takemoto M, Watanabe A, Koshizaka M, Ishikawa T, Sargolzaeiaval F, Kuzuya M, Wakabayashi H, Kusaka T, Yokote K, Oshima J.	Department of Clinical Cell Biology and Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University/ Department of Medicine, International University of Health and Welfare/ Department of Pathology, University of Washington, Seattle/ Department of Community Healthcare and Geriatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine/ Okayama City General Medical Center/ Department of Pediatrics, Kagawa University	Mol Syndromol. 2018	Mol Syndromol. 2018	Original Article

76	Kawaguchi N, Iwaki T, Wakabayashi T, Sanomura T, Kusaka T.	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University/ Department of Pediatrics, Kagawa Saiseikai Hospital/ Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kagawa University	Pedoatr Int. 2019	Pedoatr Int. 2019	Original Article
77	Sofue T, Suzuki H, Ueda N, Kushida Y, Minamino T.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Nephrology 2018 23 (Suppl.2) 1 6	Nephrology 2018 23 (Suppl.2) 1 6	Original Article
78	Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Nitta K, Tsukamoto T, Uchida S, Takeda A, Sato T, Wada T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Tsuruya K, Masutani K, Konta T, Shoji T, Hiramatsu T, Goto S, Tamai H, Nishio S, Shirasaki A, Nagai K, Yamagata K, Hasegawa H, Yasuda H, Ichida S, Naruse T, Fukami K, Nishino T, Sobajima H, Tanaka S, Akahori T, Ito T, Yoshio T, Katafuchi R, Fujimoto S, Okada H, Ishimura E, Kazama JJ, Hiromura K, Mimura T, Suzuki S, Saka Y, Sofue T, Suzuki Y, Shibagaki Y, Kitagawa K, Morozumi K, Fujita Y, Mizutani M, Shigematsu T, Kashihara N, Sato H, Matsuo S, Narita I, Isaka Y.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Clin Exp Nephrol 2018 22(6) 1266 1280	Clin Exp Nephrol 2018 22(6) 1266 1280	Original Article
79	Kimura K, Hosoya T, Uchida S, Inaba M, Makino H, Maruyama S, Ito S, Yamamoto T, Tomino Y, Ohno I, Shibagaki Y, Iimuro S, Imai N, Kuwabara M, Hayakawa H, Ohtsu H, Ohashi Y; on behalf of the FEATHER Study Investigators (Kimura K, Hosoya T, Ito S, Inaba M, Tomino Y, Uchida S, Makino H, Matsuo S, Yamanaka H, Yamamoto T, Ohno I, Shibagaki Y, Iimuro S, Imai N, Kuwabara M, Hayakawa H, Akizawa T, Teramoto T, Kasanuki H, Yoshimura K, Kimura K, Hosoya T, Shibagaki Y, Ohno I, Sato H, Uchida S, Horikoshi S, Maruyama S, Inaba M, Moriwaki Y, Uchida H, Kaneshiro N, Imai N, Moriya H, Komatsu Y, Kaname S, Hanaoka K, Ogura M, Ikeda M, Kasai K, Sugiura A, Takahashi K, Kojima K, Nitta K, Tamai H, Nagaya H, Okuno S, Kakiya R, Takeoka H, Hirata K, Asano K, Fukaya Y, Iwaida Y, Tsuneda Y, Nishimura S, Hiramatsu T, Isaka Y, Ito T, Yuzawa Y, Yamagata K, Sofue T, Jinguji Y, Hirano K, Matsuyama K, Mizumoto T, Shibuya Y, Sugawara M, Kadomura M, Teshima Y, Ohtani H, Kamata H, Okawara S, Fukushima M, Takemura K, Kinugasa E, Kogure M, Ehara Y).	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Am J Kid Dis 2018 72(6) 798 810	Am J Kid Dis 2018 72(6) 798 810	Original Article

80	Yokoyama S, Hifumi T, Okazaki T, Noma T, Kawakita K, Tamiya T, Minamino T and Kuroda Y. Shota Yokoyama, Toru Hifumi, Tomoya Okazaki, Takahisa Noma, Kenya Kawakita, Takashi Tamiya, Tetsuo Minamino and Yasuhiro Kuroda Shota Yokoyama, Toru Hifumi, Tomoya Okazaki, Takahisa Noma, Kenya Kawakita, Takashi Tamiya, Tetsuo Minamino and Yasuhiro Kuroda	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Journal of Intensive Care 2018 6 83	Journal of Intensive Care 2018 6 83	Original Article
81	Kawakami R, Nozato Y, Nakagami H, Ikeda Y, Shimamura M, Yoshida S, Sun J, Kawano T, Takami Y, Noma T, Rakugi H, Minamino T, Morishita R.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Plos One 2018 12(2) e0191895	Plos One 2018 12(2) e0191895	Original Article
82	Tsuchida S, Matsuzaki T, Yamato M, Okuda K, Fu HY, Araki R, Sanada S, Asanuma H, Asano Y, Asakura M, Hao H, Takashima S, Kitakaze M, Sakata Y, Mekada E, Minamino T.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Int Heart J 2018 59(6) 1425 1431	Int Heart J 2018 59(6) 1425 1431	Original Article
83	Asanuma H, Chung H, Ito S, Min KD, Ihara M, Takahama H, Funayama M, Imazu M, Fukuda H, Ogai A, Asano Y, Minamino T, Takashima S, Morita T, Sugimachi M, Asakura M, Kitakaze M.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Cardiovasc Drugs Ther 2019 33(3) 277 286	Cardiovasc Drugs Ther 2019 33(3) 277 286	Original Article
84	Yamada N, Asano Y, Fujita M, Yamazaki S, Inanobe A, Matsuura N, Kobayashi H, Ohno S, Ebana Y, Tsukamoto O, Ishino S, Takuwa A, Kioka H, Yamashita T, Hashimoto N, Zankov DP, Shimizu A, Asakura M, Asanuma H, Kato H, Nishida Y, Miyashita Y, Shinomiya H, Naiki N, Hayashi K, Makiyama T, Ogita H, Miura K, Ueshima H, Komuro I, Yamagishi M, Horie M, Kawakami K, Furukawa T, Koizumi A, Kurachi Y, Sakata Y, Minamino T, Kitakaze M, Takashima S.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Circulation 2019 139(18) 2157 2169	Circulation 2019 139(18) 2157 2169	Original Article

85	Yokoyama S, Hifumi T, Kawakita K, Tamiya T, Minamino T, Kuroda Y.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Shock 2019 51(5) 593-598	Shock 2019 51(5) 593-598	Original Article
86	Oguchi H, Tsujita M, Yazawa M, Kawaguchi T, Hoshino J, Kohzuki M, Ito O, Yamagata K, Shibagaki Y, Sofue T.	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine	Clin Exp Nephrol. 2019 23(2) 275-284	Clin Exp Nephrol. 2019 23(2) 275-284	Original Article
87	Toyoda T, Cho Y, Akagi J, Mizuta Y, Matsushita K, Nishikawa A, Imaida K, Ogawa K.	Onco-Pathology	J. Toxicol. Sci., 43(7):423-433, 2018	J. Toxicol. Sci., 43(7):423-433, 2018	Original Article
88	Yoshida S, Yokohira M, Yamakawa K, Nakano-Narusawa Y, Kanie S, Hashimoto N, Imaida K.	Onco-Pathology	J. Toxicol. Pathol., 31(4):255-265. 2018.	J. Toxicol. Pathol., 31(4):255-265. 2018.	Original Article
89	Yokohira M, Yamakawa K, Nakano-Narusawa Y, Hashimoto N, Kanie S, Yoshida S, Imaida K.	Onco-Pathology	J. Toxicol. Pathol., 31(4):231-240. 2018.	J. Toxicol. Pathol., 31(4):231-240. 2018.	Original Article
90	Xin Ying J, Yokohira M, Nakano-Narusawa Y, Yamakawa K, Hashimoto N, Imaida K.	Onco-Pathology	J. Toxicol. Pathol., 31(3):163-168. 2018.	J. Toxicol. Pathol., 31(3):163-168. 2018.	Original Article
91	Kanaji N, Yokohira M, Watanabe N, Kadowaki N, Bando S.	Onco-Pathology	Anticancer Res., 38(4):2007-2014. 2018.	Anticancer Res., 38(4):2007-2014. 2018.	Original Article
92	Akiyama K, Samukawa Y, Ouchi Y, Hoshikawa H.	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Auris Nasus Larynx 2018 Aug	Auris Nasus Larynx 2018 Aug	Original Article
93	Akiyama K, Naka Y, Samukawa Y, Miyake M, Hoshikawa H	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	J Craniofac Surg. 2019 Jan	J Craniofac Surg. 2019 Jan	Original Article
94	Akiyama K, Makihara S, Uruguchi K, Samukawa Y, Oka A, Hoshikawa H	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	Int Arch Allergy Immunol. 2019	Int Arch Allergy Immunol. 2019	Original Article
95	Matsubara A., Miyashita T., Inamoto R., Sakaguchi H., Kamitani T., Mori N., Hoshikawa H.	Otolaryngology, Head and Neck Surgery	J Int Adv Otol. 2018 Aug	J Int Adv Otol. 2018 Aug	Original Article
96	Ohbayashi Yumiko	Department of Oral and Maxillofacial Surgery.	Jpn Dent Sci Rev.2019 Nov;55(1):51-57	Jpn Dent Sci Rev.2019 Nov;55(1):51-57	Original Article
97	Imajo Koji	Department of Oral and Maxillofacial Surgery	J Craniofac Surg. 2018 Oct;29(7):1799-1803.	J Craniofac Surg. 2018 Oct;29(7):1799-1803.	Original Article
98	Matsuura N	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery	J Thorac Dis. 10·9·707-709·2018·9	J Thorac Dis. 10·9·707-709·2018·9	Original Article

99	Go T	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 66·11·675-678·2018.11	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 66·11·675-678·2018.11	Original Article
100	Otsuki Y	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Gen Thorac Cardiovasc Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Original Article
101	Yokota N	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery	Eur J Cardiothorac Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Eur J Cardiothorac Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Original Article
102	Matsuura N	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Gen Thorac Cardiovasc Surg. Epub ahead of print ·2019·2	Original Article
103	Koji Imajo	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	J Craniofac Surg.2018 Oct,29(7):1799-1803	J Craniofac Surg.2018 Oct,29(7):1799-1803	Original Article
104	Tomohisa Nagasa	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery Received 16 jul 2018,Accepted 23 nov 2018,Published online:19 May 2019	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery Received 16 jul 2018,Accepted 23 nov 2018,Published online:19 May 2019	Original Article
105	Inoue A	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine	Crit Care Med 2018 46:e881-888	Crit Care Med 2018 46:e881-888	Original Article
106	Yokoyama S	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine	Shock 2019;51:593-598	Shock 2019;51:593-598	Original Article
107	Yokoyama S	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine	Journal of Intensive Care2018 6:83	Journal of Intensive Care2018 6:83	Original Article
108	Katsuya Nagafuchi	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine	Circ J 2019 83:418-423	Circ J 2019 83:418-423	Original Article
109	Okazaki T	Department of Emergency, Disaster, and Critical Care Medicine	Journal of Intensive care 2018 6:28	Journal of Intensive care 2018 6:28	Original Article
110	Kazuyuki Hirooka	Department of Ophthalmology,Kagawa University Faculty of Medicine.	J Ophthalmol 2018:4682586, 2018	J Ophthalmol 2018:4682586, 2018	Original Article
111	Shino Sato	Department of Ophthalmology,Kagawa University Faculty of Medicine	J Ophthalmol 2018:5692404, 2018	J Ophthalmol 2018:5692404, 2018	Original Article
112	Takeru Shimazaki	Department of Ophthalmology,Kagawa University Faculty of Medicine	Acta Ophthalmol 96(3):e304-e308, 2018	Acta Ophthalmol 96(3):e304-e308, 2018	Original Article
113	Aoi Ono	Department of Ophthalmology,Kagawa University Faculty of Medicine.	Jpn J Ophthalmol 62(4):499-507, 2018	Jpn J Ophthalmol 62(4):499-507, 2018	Original Article

114	Nobuko Kobayashi	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	Int Ophthalmol 38(5):1969-1976, 2018	Int Ophthalmol 38(5):1969-1976, 2018	Original Article
115	Kazuyuki Hirooka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine. Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine.	J Ophthalmol 2018:1027397, 2018.	J Ophthalmol 2018:1027397, 2018	Original Article
116	Hirokazu Kojima	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	PLOS ONE 13(8):e0201973, 2018	PLOS ONE 13(8):e0201973, 2018	Original Article
117	Aoi Ono	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	Medicine (Baltimore) 97(31):e11737, 2018	Medicine (Baltimore) 97(31):e11737, 2018	Original Article
118	Yukari Takasago	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	J Renin Angiotensin Aldosterone Sys 19(3):14703203187 95001, 2018	J Renin Angiotensin Aldosterone Sys 19(3):147032031879 5001, 2018	Original Article
119	Rie Osaka	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	PLOS ONE 13(9):e0204015, 2018	PLOS ONE 13(9):e0204015, 2018	Original Article
120	Chieko Shiragami	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	Am J Ophthalmol 193:80-86, 2018	Am J Ophthalmol 193:80-86, 2018	Original Article
121	Hirokazu Kojima	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	PLOS ONE 13(9):e0204183, 2018	PLOS ONE 13(9):e0204183, 2018	Original Article
122	Saki Omatsu	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine	BMC Ophthalmol 18(1):243, 2018	BMC Ophthalmol 18(1):243, 2018	Original Article
123	Yukari Takasago	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	Retina 39(2):296-302, 2019	Retina 39(2):296-302, 2019	Original Article
124	Hirokazu Kojima	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine.	PLOS ONE 14(3):e0209145, 2019	PLOS ONE 14(3):e0209145, 2019	Original Article

計124件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	西山 成	香川大学医学部薬理学	SGLT2阻害薬の臨床作用の基礎的解析	血圧 25(4):226-227, 2018	Original Article
2	北村裕亮	1香川大学医学部附属病院手術部 2香川大学医学部薬理学講座	敗血症性腎障害に対するANPの効果	血管 41(4):1-8, 2018	Original Article
3	西山 成	香川大学医学部薬理学	SGLT2阻害薬による可能性を探る-はじめに-	医学のあゆみ, 266(4): 255, 2018	Review
4	西山 成	香川大学医学部薬理学	新規降圧薬の開発動向	日本臨牀, 76(8): 1461-1467, 2018	Original Article
5	西山 成	香川大学医学部薬理学	異分野から行き着いたがん研究「(プロ)レニン受容体」	日本がん予防学会 NEWSLETTER.: 97: 5-6 2018	Original Article
6	西山 成	1香川大学医学部薬理学 2大阪市総合医療センター腎臓 高血圧内科	食塩感受性高血圧ラットにおいて生じた腎組織障害は、減塩とARB・CCBによる厳密な降圧により後退しうる	腎とフリーラジカル, 13:78-79 2018	Original Article
7	西山 成	香川大学医学部薬理学	腎臓病とRAA系阻害薬のupdate	腎臓内科・泌尿器科: 8(2): 115-119, 2018	Original Article
8	中野大介	香川大学医学部薬理学	SGLT2阻害薬への期待	腎・高血圧の最新治療: 8(2): 95-99, 2019	Original Article
9	中野大介	香川大学医学部薬理学	尿細管の代謝について	腎臓内科・泌尿器科: 9(1): 76-80, 2019	Original Article
10	松岡 祐貴	香川大学 医学部泌尿器科	超高齢時代の尿路悪性腫瘍の薬物療法 高齢者膀胱癌に対する薬物療法(解説)	西日本泌尿器科	Review
11	加藤 琢磨	香川大学 医学部泌尿器科	【あなたは考えていますか? 前立腺癌検診・生検・治療のQOLと費用対効果】PROに基づく各種限局性前立腺癌の治療戦略の評価 監視療法ほかの治療法とのQOL比較および患者希望での治療変更理由(解説/特集)	臨床泌尿器科	Review
12	上田 修史	香川大学 医学部泌尿器・副腎・腎移植外科	泌尿器科領域におけるトラブルシューティング(第87回) 腎移植におけるトラブルシューティング 術後腎血管合併症(解説)	泌尿器外科	Review
13	三宅 啓介	香川大学医学部脳神経外科	術前シミュレーションと術中画像支援が腫瘍摘出に有用であった再発脳幹部毛様細胞性星細胞腫の1例	小児の脳神経 (0387-8023)43巻3号 Page395-400(2018.09)	Case report
14	川西 正彦	香川大学医学部脳神経外科	脳卒中救急現場からのレポート(第2回) 香川県における脳卒中救急治療の現状と取り組み	分子脳血管病 (1346-8995)17巻2号 Page198-201(2018.07)	Case report

15	川西 正彦	香川大学医学部脳神経外科	本音と主観で語る脳血管内治療に用いるデバイスの基礎知識 SHOURYUをどう使いこなすか?(解説)	脳神経外科速報 (0917-1495)28巻4号 Page395-400(2018.04)	Review
16	山口 幸之助	香川大学 整形外科	関節内Smith骨折における掌側ロッキングプレートの設置状況と矯正損失の関係 プレートの被覆率と設置位置に着目して	日本手外科学会雑誌 35巻5号 1079-1082 2019	Original Article
17	加地 良雄	香川大学 整形外科・リハビリテーション科	DVRプレートによる月状骨窩掌側骨片の固定限界の検討 臨床例の術後CTを用いた検討	日本手外科学会雑誌 35巻5号 1052-1055 2019	Original Article
18	畠村 将志	香川大学 整形外科	Short femoral nailを用いた大腿骨転子部骨折術後の透視側面像とCT像の検討	骨折 41巻1号 139-142 2019	Original Article
19	畠村 将志	香川大学 整形外科	Wagner cone stemを使用した人工股関節全置換術の短期成績	日本人工関節学会誌 48巻 157-158 2018	Original Article
20	藤原 龍史	香川大学 整形外科	香川県における脊椎・脊髄損傷の受診調査(第二報)	中国・四国整形外科学会雑誌 30巻2号 185-188 2018	Original Article
21	小林 裕生	香川大学医学部附属病院 リハビリテーション部	人工膝単顆置換術前後の生活空間の経時的変化と運動機能の関係	総合リハビリテーション 46巻10号 973-979 2018	Original Article
22	畠村 将志	香川大学 整形外科	偏心性寛骨臼回転骨切り術の短期成績	Hip Joint 44巻1号 47-50 2018	Original Article
23	磯崎 竜一	香川大学 整形外科	大腿骨内顆骨壊死進行によるHTO後再内反に対してUKAを施行した1例	中国・四国整形外科学会雑誌 30巻1号 63-67 2018	Case report
24	中村 祐, 田村 かおる, 片岡 尚子, 西村 一馬, 本間 昭	香川大学 医学部精神神経医学講座	軽度および中等度のアルツハイマー型認知症患者を対象とした、リバステグミンパッチの2つの漸増法における安全性、忍容性および有効性の比較検討試験 詳細な安全性データについて	老年精神医学雑誌	Original Article
25	三村志麻	消化器内科	B型慢性肝炎の治療戦略	香川県内科医会誌 54: 29-36, 2018	Review
26	小原英幹	消化器内科	出血, 穿孔, 瘻孔に対するOver-The-Scope Clip使用のコツ	Gastroenterological Endoscopy 60: 1598-1610, 2018	Review
27	鎌田英紀	消化器内科	胃切除後B-1再建における胆管挿管【動画付】	胆と膵 39(12): 1367-1371, 2018	Review

28	鎌田英紀	消化器内科	胆嚢ドレナージ— 成功率を高める極意	消化器内視鏡 31(3): 440-445, 2019	Review
29	伊藤進、岡田仁	香川大学医学部小児科学講座	血清中における非 抱合ビリルビンが 直接型ビリルビン 測定に及ぼす影 響、臨床化学、 47:256-262, 2018 の論文に対して	臨床化学	Review
30	祖父江理、谷澤雅彦、辻田誠、小 口英世、西平守邦、豊田麻理子、 乾政志、上田修史、串田吉生、鈴 木仁	循環器・腎臓・脳卒中内科	腎移植後レシピエ ントにおける腎移 植後IgA腎症の非 侵襲的診断確立を 目的とした多施設 共同前向き観察研 究—途中経過報告—	日本臨床腎移植学 会雑誌	Original Article
31	西岡里香、祖父江理、白石愛子、 大西啓右、藤田拓朗、尾崎太郎、 守時政宏、西島陽子、南野哲男、 出口一志	循環器・腎臓・脳卒中内科	当院における視神 経脊髄炎関連疾患 に対するアフエシ ス療法の有効性	香川県透析医会誌	Original Article
32	大西啓右、西島陽子、下野愛子、 西岡里香、藤田拓朗、尾崎太郎、 守時政宏、祖父江理、串田吉生、 南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科	高Ca血症を認めな いにもかかわらず、 急速に進行する 腎機能障害を呈 したサルコイドー シスの1例	日本内科学会雑誌	Case report
33	祖父江理、上田修史、串田吉生、 西岡 聡	循環器・腎臓・脳卒中内科	ヘテロ接合体女性 からの腎提供(ファ ブリー病とアル ポート症候群)	日本臨床腎移植学 会雑誌	Case report
34	富海英、南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科	小胞体ストレス・ オートファジーから みた抗腫瘍薬によ る心毒性	腫瘍循環器ガイド Onco-Cardiology	Original Article
35	村上和司、南野哲男	循環器・腎臓・脳卒中内科	V.臨床研究の進 歩 心疾患 冠動脈 疾患における抗血 栓療法	日本臨床	Review
36	祖父江理	循環器・腎臓・脳卒中内科	内科医から見た腎 移植	日本腎臓学会誌	Review
37	今井田克己	香川大学医学部腫瘍病理学	我が国の食品安全 と日本食品化学学 会	FFIジャーナル	Original Article
38	鈴木貴子、船本康申、谷本由香 利、中川幸智代、竿尾光祐、横平 政直、今井田克己、西田荘哉、小 倉浩二、小倉智子、鎌田敏雄	香川大学医学部腫瘍病理学	回生病院における 子宮頸部細胞診の 成績(第1報)ーベ セスダシステムに 基づく最近5年間の 成績と解析ー	回生病院医学雑誌	Original Article
39	今井田克己	香川大学医学部腫瘍病理学	特集:食品安全に 係るリスクアナリ シスの現況と課題」 よせて:巻頭言	FFIジャーナル	Review
40	田中 麻央	歯科口腔外科学講座	顎変形症手術後に 誤嚥性肺炎を生じ た筋強直性ジスト ロフィー患者の1例	障害者歯科 40巻1 号 Page44- 51(2019.02)	Case report

41	大林 由美子	歯科口腔外科学講座 放射線医学講座	【薬剤関連顎骨壊死の画像診断up to date】骨吸収抑制薬長期投与における顎骨の骨代謝骨シンチグラフィによる評価	臨床放射線 63巻10号 Page1099-1106(2018.10)	Original Article
42	工藤博雄	形成外科	形成外科におけるバイオメカニクス研究の法医学領域における応用経験	日本形成外科学学会誌	Original Article
43	宍戸 肇	救命救急センター	頭部外傷患者における血清リン酸化ニューロフィラメント(pNF-H)の有用性の検討	Neurosurg Emerg 24:32-38, 2019	Original Article
44	井上明彦	救命救急センター	外傷患者における疼痛管理	日本集中治療医学会雑誌 2018:25:421-9	Original Article
45	黒田泰弘	救命救急センター	脳神経蘇生	日本臨床麻酔学会雑誌 38:3:364-372, 2018	Original Article
46	加地良雄	リハビリテーション科	DVRプレートによる月状骨窩掌側骨片の固定限界の検討 臨床例の術後CTを用いた検討	日本手外科学会雑誌35巻5号	Original Article
47	加地良雄	リハビリテーション科	CT画像を用いたDVRアノミックプレートの関節面支持点の検討	日本手外科学会雑誌34巻6号	Original Article

計47件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の主な内容1 医学部倫理委員会の趣旨及び設置<ul style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 設置2 委員会の組織等<ul style="list-style-type: none">(1) 組織(2) 委員長(3) 専門委員等3 委員会の任務4 審査の観点5 審査の開始<ul style="list-style-type: none">(1) 審査の開始(2) 審議方法の判定等6 通常審議<ul style="list-style-type: none">(1) 委員会の開催(2) 委員会の成立要件等(3) 審査の判定及び通知7 迅速審査<ul style="list-style-type: none">(1) 迅速審査の実施(2) 審査の判定及び通知8 簡易審査<ul style="list-style-type: none">(1) 簡易審査の実施(2) 審査の判定及び通知9 サージカルトレーニング審査<ul style="list-style-type: none">(1) サージカルトレーニング審査の実施(2) 審査の判定及び通知10 人を対象とする医学系研究に該当しない研究等について11 議事要旨等の保存及び公表<ul style="list-style-type: none">(1) 議事要旨等の保存(2) 議事要旨等の公表12 委員の守秘義務13 委員会委員名簿14 その他	

③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回
----------------	------

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>香川大学医学部に、臨床研究利益相反委員会を置き、委員会は、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかな場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	<p>年14回</p> <p>※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかな場合にのみ随時開催することとしている。</p>

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>研究者等の臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識の向上を目的として、平成30年4月、平成30年10月、平成31年1月、平成31年3月に医学部倫理委員会教育訓練講習会を実施した。また、平成30年11月には、研究者等のヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理その他ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に必要な知識の向上を目的とするヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会を実施した。平成30年度8月には、臨床研究法の特定臨床研究に該当する研究の実施に必要な知識の向上を目的とする特定臨床研究研修会を2回実施した。</p>	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

下記の研修統括者を代表とする指導医の適切な指導の下、各専門領域の高度医療に関する研修指針に基づく体系的な指導を行うとともに、多職種からなる定期的なカンファレンス、医療安全・感染制御及び医療倫理等の講習会等の参加機会を確保し、チーム医療や安全管理等の実践教育を行っている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 73人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
村尾 孝児	内分泌代謝内科	教授	29年	
門脇 則光	血液内科	教授	33年	
土橋 浩章	膠原病・リウマチ内科	准教授	27年	
石井 知也	呼吸器内科	講師	22年	
南野 哲男	循環器内科 抗加齢血管内科	教授	31年	
祖父江 理	腎臓内科	講師	15年	
正木 勉	消化器内科	教授	29年	
出口 一志	脳神経内科	准教授	33年	
舩形 尚	総合内科	教授	33年	
辻 晃仁	腫瘍内科	教授	28年	
窪田 泰夫	皮膚科	教授	40年	
中村 祐	精神科神経科	教授	33年	
日下 隆	小児科	教授	28年	
金西 賢治	周産期科女性診療科	教授	26年	
堀井 泰浩	心臓血管外科	教授	31年	

鈴木 康之	消化器外科	教授	36年
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	38年
紺谷 桂一	乳腺内分泌外科	准教授	36年
下野 隆一	小児外科	准教授	31年
山本 哲司	整形外科	教授	36年
杉元 幹史	泌尿器・副腎・腎移植外科	教授	31年
田宮 隆	脳神経外科	教授	38年
鈴間 潔	眼科	教授	26年
星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	29年
西山 佳宏	放射線診断科	教授	29年
柴田 徹	放射線治療科	教授	31年
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	35年
永竿 智久	形成外科・美容外科	教授	29年
羽場 礼次	病理診断科	准教授	29年
加地 良雄	リハビリテーション科	講師	25年
三宅 実	歯・顎・口腔外科	教授	32年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

エキスパート研修 看護職員を対象とし、緩和ケア、がん性疼痛看護、糖尿病看護、新生児集中ケア、感染管理、手術看護、集中ケア、認知症看護、乳がん看護、脳卒中リハビリテーション看護、皮膚排尿ケア(WOC)、小児救急の専門分野におけるエキスパートの育成を目的とする。

・研修の期間・実施回数

年 38 回

・研修の参加人数（延べ数）

平成 30 年度 805 名（院外従事者含む）

・研修の主な内容

病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に医薬品の適正使用について指導を行う

・研修の期間・実施回数

適宜 年数回

・研修の参加人数

各病棟 5～10 名程度

・研修の主な内容

臨床検査技師を対象とする勉強会

・研修の期間・実施回数

週 1 回

・研修の参加人数

20～25 名

・研修の主な内容

診療放射線技師を対象とする放射線部勉強会

・研修の期間・実施回数

週 1 回

・研修の参加人数

約30名

- ・研修の主な内容
移乗動作・体位変換、NICU・GCUに長期入院している児への発達ケア、小児の呼吸理学療法、呼吸リハビリ、呼吸介助方法
- ・研修の期間・実施回数
年4回
- ・研修の参加人数
約50名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
感染・安全、倫理、労務、個人情報保護、清拭・寝衣交換、オムツ交換、移送・移乗、看護補助者研修
- ・研修の期間・実施回数
4回+採用時研修11回（延1,420分）
- ・研修の参加人数（延べ数）
183名

- ・研修の主な内容
病棟にて薬剤師が主に看護職員を対象に麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理について指導を行う
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回
- ・研修の参加人数
各病棟5～10名程度

- ・研修の主な内容
放射線部に所属する全職種責任者による放射線部安全運営会議
- ・研修の期間・実施回数
月1回
- ・研修の参加人数
約10名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
専門看護師、認定看護師による公開講座
急性・重症患者看護、がん看護、認知症、慢性心不全、小児救急、脳卒中リハ
- ・研修の期間・実施回数
3回（7～12月） 延時間690分
- ・研修の参加人数（延べ数）
74名

- ・研修の主な内容
抗 HIV 薬・検査値の活用に関する勉強会
- ・研修の期間・実施回数
適宜 年数回
- ・研修の参加人数
各医療機関（薬局等） 2～3名

- ・研修の主な内容
MRI の検査技術について
- ・研修の期間・実施回数
1ヶ月・1回
- ・研修の参加人数
約1名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 田宮 隆	
管理担当者氏名	総務課長 横川 利子 薬剤部長 芳地 一	医事課長 前川 豊弘 放射線部長 柴田 徹

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医学部医事課	
		各科診療日誌	医学部医事課	
		処方せん	倉庫	
		手術記録	電子カルテ	
		看護記録	電子カルテ	
		検査所見記録	電子カルテ	
		エックス線写真	電子カルテ	
		紹介状	電子カルテ	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課	
		高度の医療の提供の実績	医学部医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課	
		高度の医療の研修の実績	医学部総務課	
		閲覧実績	医学部医事課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課 薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第三項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医学部総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 総合地域医療連携センター 医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医学部総務課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	医学部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務グループ		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務グループ		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 中島 一浩	
閲覧担当者氏名	医事課長 前川 豊弘	
閲覧の求めに応じる場所	管理棟1階情報公開室	
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：別紙①のとおり 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。 3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。 4. 医療事故の防止及び対策に関すること。 5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。 6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。 7. 医事問題に係る対策に関すること。 8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。 9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 54回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙②のとおり 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントレポートの収集・分析：毎日レポートを確認後、現場へ事実確認を行う。重要事例については現場にイベントレビューを記載依頼し、その後現場と共に分析を行う。レベル3b以上のインシデントを含む重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。 2. 効果的な安全対策の立案：現場と共に行った分析の結果、立案した安全対策を医療安全管理部員会議で審議する。 3. 安全対策を現場にフィードバックし、その後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。（PDCAサイクルを回す） 	

4. 全死亡退院事例を検証し、詳細な検討が必要であると認めた事例には当該科へ報告書の提出を依頼し、医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会で審議する。
5. 安全管理の委員会の運営：医療安全管理部員会議・医療安全管理委員会・リスクマネージャー会議の運営（資料作り・関係部署との調整など）
6. 職員研修の企画・運営：安全研修の企画運営と採用者・異動者に対する初期安全研修の実施、発生したインシデントに対する教育指導として研修を企画・運営。
7. Safety ニュース発行（毎月）：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起している。
8. 安全対策マニュアル（指針を含む）の見直し（年1回）：最新の医療水準に基づいて内容の見直しを毎年実施している。（RM 全員と共に行っている。）
9. 医療安全に関する患者からの相談対応。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容：別紙③のとおり	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の調査、予防及び防止に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染症発生時の措置に関すること。 4. 院内職員の教育及び啓蒙に関すること。 5. 消毒剤の使用に関すること。 6. HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関すること。 7. HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関すること。 8. HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関すること。 9. その他感染予防に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 46回
・ 研修の内容（すべて）：別紙④のとおり	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 感染対策室員会議、感染制御委員会で、MRSA等の耐性菌検出状況と共に、感染予防策の実施状況及び、感染拡大防止を図るための課題の検討・報告を行っている。室員会議・委員会における報告・決定事項は、職種横断的な構成員により各部署へ周知される。 耐性菌検出時や問題となる感染症発生時には、ICNが現場に出向き、適切な対策が実施できているかを確認し、指導を行っている。また、ICTによる感染症ラウンド時においても、現場の感染対策の実施状況の評価を行っている。 アウトブレイク発生時や重大な感染事例発生時には、ICTで対策を検討し、ICT、リンクドクター、リンクナースが協働し対応にあたる。病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告は適宜行う。 院内感染予防マニュアルは、適宜改訂を行っており、電子カルテから閲覧できるよう整備している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 ((有)・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と購入 2. 医薬品の管理 3. 投薬指示と調剤 4. 患者に対する服薬指導 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6. 他施設との連携の各業務について適正に実施している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 下咽頭形状窩ろうに対する化学焼灼術にトリクロロ酢酸を使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科・部に配布している。 2. 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3. 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4. 院内での副作用発生事例については情報を収集し、PMDAおよび当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5. 薬事委員会(医薬品安全管理に関する委員会)を設置、年4回開催している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 約150回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 特定保守管理医療器（人工心肺装置及び補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動器・閉鎖式保育器）を中心に関連する部署、職員等を対象に新規導入の医療機器や使用機器の研修計画を年度毎に立て計画的に実施している。内容は使用上における使用方法や注意事項・運用方法など現場と相談し行っている。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。 業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： カテーテル治療における止血及び動脈塞栓術にヒストアクリルを使用。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内ニュースとして「ME機器管理センターからのお知らせ」を定期的に発行し、各病棟、各部署に配布周知している。 医療機器に関わるインシデントや運用について必要に応じてリスクマネージャー会議で協議し周知徹底を行っている。 また、対象部署が限局される事項の内容やPMDA（医療機器）回収情報など、その都度通知文を回覧し周知徹底している。 院内ネットワークK-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括させる医療安全管理責任者を配置し、統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 1回/月、薬剤部ニュース、1回/3ヶ月、DI ニュースを発行し、各診療科・各部署に配布して記名により周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認薬剤は未承認新規医薬品等評価部門での審査を必須としている。禁忌薬剤は系統的にチェックをかけて注意・警告している。禁忌病名は1回/月 薬品名と病名を抽出し、表にして各診療科・各部署に配布し記名により周知状況を確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の実席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無 ※マニュアルで代行）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ：2016年9月に作成したインフォームド・コンセントに関する規定（マニュアル）において、説明内容・説明方法を新しく設定し、2016年11月の全職員対象の研修会において周知した。同時に、規定に定めた雛形に沿った説明・同意文書の作成を行うように指導した。その結果、2019年8月までに、雛形に沿った541個の説明・同意文書が提出され、規定に定めた事項が遵守されていることを確認した。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の記載内容については定期的に監査を行い、不十分な事例が認められる場合は当該診療科に通知し、適切な診療録記載が行われるよう指導している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（21）名 うち医師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（8）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（3）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>①病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会の審議事項に関して、調査、資料作成等を行うとともに、医療安全管理委員会の審議結果等に基づく安全管理を実施する。 ②安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。 ③医療安全の確保に資する診療の状況を把握する。 ④職員の医療安全に関する意識向上の状況確認を行う。</p> <p>モニタリング具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデント分析 ・死亡退院事例検証（粗死亡率、真死亡率、術後10日以内死亡率） ・院内急変事例分析（コードブルー、ショックコール、RRS件数） ・転倒転落発生率 ・転棟転落（有害事象発生率、3b、骨折） ・CV穿刺に関する有害事象発生率 ・再手術（24時間以内） ・患者誤認発生率、発生数 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◎高難度新規医療技術の提供の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否、実施を認める場合の条件等について意見を求める。
 - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
 - ◎高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術が適切な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。
 - ◎高難度新規医療技術の提供の適否等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（12件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ◎未承認新規医薬品等の申請内容を確認するとともに、評価委員会に対して、その適否及び使用条件等について意見を求める。
 - ◎評価委員会の意見を踏まえ、その適否及び使用条件等について決定し、申請を行った診療科等の長に対しその結果を通知する。
 - ◎未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び

術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認する。

◎未承認新規医薬品が適切な手続きに基づいて提供されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況を確認する。

◎未承認新規医薬品の使用の適否及び使用条件等について決定した時及び申請を行った診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容を病院長に報告する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：全例報告

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 144 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。
2. 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。
3. 安全管理に関する教育及び研修に関すること。
4. 医療事故の防止及び対策に関すること。
5. 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。
6. 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。
7. 医事問題に係る対策に関すること。
8. 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。
9. その他医療事故を含む安全管理に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：長崎大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：山梨大学医学部附属病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況 適応外医薬品使用に係る審査体制の整備

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

安全管理のための基本方針として、「患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して誠実に対応する。」と掲げ、医療相談窓口を設け、患者からの相談に対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
別紙⑤のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全確実な医療を実践・教育する。医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のための安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

1) 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

2) 医療安全管理責任者

医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括するため、医療安全管理責任者を置く。

3) 医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

4) 専任リスクマネジャー

病院長から委譲された権限に基づき、本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネジャーを置く。

5) リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させるため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリスクマネジャーを置く。

6) 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

7) 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。

医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

8) 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

9) インフォームド・コンセントに係る責任者

インフォームド・コンセントを適切に実施するための手順の作成、手順の遵守状況の確認、指導・研修、その他適切な実施に関することを行うため、インフォームド・コンセントに係る責任者を置く。

10) 診療録管理責任者

診療録その他の診療に関する記録の適切な管理を行うために診療録管理責任者を置く。

11) 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

12) 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全管理責任者を置く。

13) 診療情報の共有

医療従事者からの十分な説明に基づいて、患者自身が疾病や診療内容について理解・納得・同意が得られるように情報を共有する。患者さんと医療従事者との間で患者さんの診療情報を共有し、医療上の意思決定や治療効果の向上が図ることができるようにする。また医療従事者間でも患者の診療情報を共有し、安全で質の高い医療の実現を目指すものとする。

14) 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

15) その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

平成30年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月26日	新採用研修医	31名	140分	講義 「当院の患者安全管理体制について」 「インシデントレポートの書き方・死亡退院事例報告の書き方と医療事故調査制度について」 「院内緊急体制および医療事故調査・支援センターに報告された死亡事例の分析」 「ヒューマンエラーとその対策・当院の安全管理体制」 「医薬品の取り扱いについて」
					講師 医療安全管理部 門脇医療安全管理部長・舩形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
2 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月28日	新採用研修医	31名	120分	講義 「CV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」 「CV(中心静脈カテーテル)挿入マニュアル」 「エコーガイド中心静脈穿刺法」 実習 「シミュレーターを用いたCV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」
					講師 医療安全管理部 舩形GRM・村上GRM 手術部 古泉真理 日本コヴィディエン株式会社
3 新採用者 初期安全研修	4月2日	新採用者 (医師)	35名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応」
					講師 医療安全管理部 舩形専任RM
4 新採用者 初期安全研修	4月3日	新採用者 (看護師)	61名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
5 新採用者 初期安全研修	4月5日	新採用者 異動者 (事務職員・事務補佐員・言語聴覚士・作業療法士・臨床工学技師・薬剤師・外注職員アビリティ・ニチイ・文教)	17名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
6 新採用者 初期安全研修	4月16日	新採用者 (看護補助者)	39名	25分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
7 新リスクマネジャー研修	4月18日	リスクマネジャー	8名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 舩形専任RM
8 新採用者 初期安全研修	4月18日	新採用者 (医師)	10名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舩形専任RM
9 復帰者安全研修	5月7日	復帰者(看護師)	11名	40分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
10 昇任者安全研修	5月7日	昇任者 (副師長)	4名	40分	講義 「医療安全(・医療事故防止対策・事故発生時の対応)」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
11 新採用者 初期安全研修	5月15日	新採用者 (調理師・薬剤師・臨床検査技師・事務員・事務補佐員・外注職員ニチイ)	11名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
12 安全管理研修(講義)	5月22日	全職員	699名 (703名)	60分	講義 「高難度新規医療技術等評価部の紹介」 「インフォームド・コンセント整備について -2016年特定機能病院承認要件への対応として-」 「平成29年度検証集計報告 ・院内緊急体制・中心静脈カテーテル挿入関連」 「平成29年度インシデントレポート報告」 「平成29年度ブレアボイド報告分析」
					講師 医療安全管理部 門脇医療安全管理部長・舩形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
13 復帰者安全研修	5月29,31日 (ビデオ上映会)	全職員 (ビデオ上映会)	433名 (443名)	60分	
13 復帰者安全研修	6月5日	復帰者(看護師)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
14 新採用者 初期安全研修	6月5日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
15 安全管理研修(講義)	6月12日	全職員	709名 (713名)	60分	講義 「院内における薬剤耐性菌対策-抗菌薬の適正使用と感染予防策-」 「ウイルス性肝炎と肝炎受動勧奨システムの運用について」
					講師 薬剤部 感染制御認定薬剤師 山口 佳津騎 感染制御部 感染対策室 感染管理認定看護師 間嶋 由美子 消化器・神経内科学 教授 正木 勉
15 安全管理研修(講義)	6月20,26日 (ビデオ上映会)	全職員 (ビデオ上映会)	330名 (341名)	60分	

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容	
16	新採用者 初期安全研修	6月14日	新採用者 (栄養士・事務補佐員・外注 職員ニテイ)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
17	新リスクマネジャー研修	6月19日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
18	復帰者安全研修	7月9日	復帰者(看護師)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
19	新採用者 初期安全研修	7月9日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
20	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	6月15日～ 7月15日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
21	新リスクマネジャー研修	7月17日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
22	復帰者安全研修	8月1日	復帰者(看護師)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
23	新採用者 初期安全研修	8月1日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	7月3日～ 8月3日	新採用者 (医師)	2名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
25	新採用者 初期安全研修	8月7日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
26	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	7月19日～ 8月20日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義「2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
27	新リスクマネジャー研修	8月28日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
28	復帰者安全研修	9月4日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
29	新採用者 初期安全研修	9月4日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
30	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	8月6日～ 9月6日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
31	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	8月21日～ 9月21日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
32	安全管理研修(講義)	9月25日	全職員	695名 (701名)	60分	講義 「医療事故対応と対応からの学び」 講師 京都大学医学部附属病院 医療安全管理室室長 医療安全学 教授 松村 由美
		10月1～ 3日	全職員 (ビデオ上映会)	355名 (367名)	60分	
33	新採用者 初期安全研修	9月27日	新採用者 (事務補佐員)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
34	復帰者安全研修	10月2日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
35	新採用者 初期安全研修	10月2日	新採用者 (看護補助者)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
36	新採用者 初期安全研修	10月31日	新採用者 (事務補佐員・外注職員ニテ イ、技能補佐員)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
37	復帰者安全研修	11月2日	復帰者(看護師)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
38	10月5日～ 11月9日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	10月9日～ 11月9日	新採用者 (医師)	0名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
39	11月5日～ 12月5日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
40	11月15日 ～12月14 日	新採用者 (医師)	2名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
41	11月22,26 日	医師、看護師、放射線技師	395名	60分	講義「医療ガスに係る安全管理のための職員研修」
					講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)高松事業所 所長 荒木聖文
42	11月20日 12月4.6 日	全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く)	595名 (596名)	60分	講義 <放射線> 「放射線部領域の安全管理」 <診療情報> 「診療録の記載について」
					講師 <放射線> 放射線部 副部長 木村 成秀 <診療情報> 診療情報管理室長 横井 英人
43	12月3日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
44	1月7日	復帰者(看護師)	2名	31分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
45	1月8日～ 2月8日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
46	1月10日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	3名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
47	1月11日	新採用者 (看護補助者)	4名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
48	1月22日 1月29,31 日 2月1日	全職員 (ビデオ上映会)	627名 (633名)	60分	講義 「Antimicrobial Stewardship Program(ASP)の成果」
					講師 岐阜大学医学部附属病院 副病院長 生体支援センター長 村上 啓雄
49	2月5日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
50	2月12日	新採用者 (事務補佐員、外注職員-チ 1)	3名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
51	2月13日～ 3月15日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
52	2月19日 2月27日 3月4日	附属病院で診療に従事する 全職員 (事務系職員・調理師は除 く・医事課・医療支援課は 含む)	583名 (590名)	60分	講義 「術後痛治療の安全管理」 「医学部・附属病院の情報セキュリティ」 「AEDの日常点検と使用方法」
					講師 麻酔・ペインクリニック科 山上 有紀 診療情報管理室長 横井 英人 フクダ電子四国販売(株) 納田 和也
53	3月1日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
54	3月14日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM

感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。

そのための基本的な考え方を以下に定める。

1. 感染対策に関する基本的な考え方

医療関連感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が理解実践し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手指衛生の徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防対策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、医療関連感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

医療関連感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上、抗菌薬適正使用の推進を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染管理システムにより、随時情報提供を行う。

6. 医療関連感染発生時の対応に関する基本方針

医療関連感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。

感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について、感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。

付 則

この指針は、平成 19 年 7 月 1 日より施行する。

平成 21 年 3 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 23 年 7 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 25 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

平成 30 年 12 月 1 日より一部改定、施行する。

平成30年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(医師)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	平成30年度卒後臨床研修オリエンテーション 院内における感染予防策	新規採用 研修医	31	H30・3・27・ 29	アドバンスルーム1
2	平成30年度医師採用時オリエンテーション 香川大学医学部附属病院における感染対策	新規採用 医師	35	H30.4.2	研修医カンファ室
3	香川大学医学部附属病院における感染対策	平成29年度未 受講者(1名)、 新規採用(10 名)	11	H30.4.18	

平成30年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(コメディカル・事務対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	12	H30.4.5	西7階カンファレンスルーム
2	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ(4/1採用)	6	H30.5.15	西7階カンファレンスルーム
	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ(中途採用)	4	H30.5.15	西7階カンファレンスルーム
3	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	4	H30.6.14	南2階カンファレンスルーム
4	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	3	H30.8.7	南2階カンファレンスルーム
5	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	3	H30.9.27	南2階カンファレンスルーム
6	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	4	H30.10.31	南2階カンファレンスルーム
7	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	3	H31.1.10	南2階カンファレンスルーム
8	香川大学医学部附属病院における感染対策	事務・メディカルスタッフ	3	H31.2.12	南2階カンファレンスルーム

平成30年度 感染対策採用者・異動者・復帰者職員研修(看護師対象)

No	件名	対象者	人数	実施日	場所
1	感染管理体制 当院における院内感染防止対策	新人看護師	61	H30.4.3	管理棟4F会議室
2	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	看護師(副師長)	4	H30.5.7	管理棟4F会議室
3	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	看護師	11	H30.5.7	管理棟4F会議室
4	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	1	H30.6.5	管理棟4F会議室
5	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	2	H30.7.9	管理棟4F会議室
6	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	1	H30.8.1	管理棟4F会議室
7	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	3	H30.9.4	管理棟4F会議室
8	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	3	H30.10.1	管理棟4F会議室
9	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	2	H30.11.2	西カンファレンス室
10	香川大学医学部附属病院における院内感染対策	育休復帰者	2	H31.1.7	管理棟4F会議室
11	当院における院内感染対策	育休復帰者	3	H31.3.8	管理棟4F会議室

平成30年度感染管理 エキスパート研修

	年月日	時間	テーマ	対象者	参加者
第1回	H30.6.28	60分	実践に繋がる！感染対策の基本 －感染対策の要、手指衛生から環境整備まで－	全病棟の看護師	62名
第2回	H30.7.31	60分	患者の命を守る！適切な抗菌薬治療 －抗菌薬治療の基本をおさえよう－	全病棟の看護師	62名
第3回	H30.9.27	40分	知って得する！細菌検査	全病棟の看護師	39名
第4回	H30.10.25	60分	Outbreakを防ぐためのコツ	全病棟の看護師	51名

平成30年度 感染対策職員研修

NO.	件名	対象者	人数	出席率	実施日
1	院内における薬剤耐性菌対策 —抗菌薬の適正使用と感染予防策—	全職員	710	97.2%	H30.6.12
	ビデオ上映		330		H30.6.20 H30.6.26
	e-learning		261		
2	Antimicrobial Stewardship Program(ASP) の成果	全職員	627	95.90%	H31.1.22
	ビデオ上映		410		H31.1.29 H31.1.31 H31.2.1
	e-learning		191		

平成30年度 その他研修

NO.	内 容	対象者	人数	実施日	場 所
1	感染管理 技術演習	新規採用看護職員	61	30. 4. 9	スキルスラボラトリー 2F
2	感染管理	看護学生		30. 6. 1	学生課
3	静脈注射における感染予防策	看護師研修	58	30. 6. 1	西病棟7F カンファレンスルーム
4	病院給食の衛生管理	栄養士の学生	6	30. 7. 3	スキルスラボラトリー 2F
5	NICUにおける感染対策	NICU勉強会	7	30. 7. 23	NICU
6	病院給食の衛生管理	学生実習		30. 8. 20	スキルスラボラトリー 2F
7	院内感染防止対策	薬学生	9	30. 9. 14	西1F カンファレンスルーム
8	WHO手指衛生の5momentsを 正しく理解しよう	救命救急センター 勉強会	8	30. 9. 14	
9	静脈注射における感染予防策	看護師研修	29	30. 10. 24	
10	病院給食の衛生管理 -安全な食提供のための手指衛 生	臨床栄養部学生実習	4	30. 11. 12	スキルスラボラトリー 2F
11	感染に留意した院内清掃業務	清掃業者研修	19	30. 11. 12	スキルスラボラトリー 2F
12	感染に留意した院内清掃業務	清掃業者研修	20	30. 11. 16	スキルスラボラトリー 3F
13	病棟の手洗い	医学生臨床実習		30.11.19	
14	院内感染防止対策	薬学生	7	30.11.20	西1F カンファレンスルーム
15	平成30年上半期中心ライン血 流感染サーベイランス結果報告	南病棟7階		30.12.20	南病棟7階
16	病院給食の衛生管理	臨床栄養部学生、 委託職員		31.2.18	スキルスラボラトリー2F
17	病院給食の衛生管理	臨床栄養部学生、 委託職員	12	31.3.4	スキルスラボラトリー2F
18	感染に留意した院内清掃業務	清掃業者研修	51	31.3.13~14	スキルスラボラトリー2F

平成30年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1	3月26日	新採用研修医	31名	140分	講義 「当院の患者安全管理体制について」 「インシデントレポートの書き方・死亡退院事例報告の書き方と医療事故調査制度について」 「院内緊急体制および医療事故調査・支援センターに報告された死亡事例の分析」 「ヒューマンエラーとその対策・当院の安全管理体制」 「医薬品の取り扱いについて」
					講師 医療安全管理部 門脇医療安全管理部長・舛形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
2	3月28日	新採用研修医	31名	120分	講義 「CV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」 「CV(中心静脈カテーテル)挿入マニュアル」 「エコーガイド中心静脈穿刺法」 実習 「シミュレーターを用いたCV(中心静脈カテーテル)挿入手技実習」
					講師 医療安全管理部 舛形GRM・村上GRM 手術部 古泉真理 日本コヴィディエン株式会社
3	4月2日	新採用者 (医師)	35名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
4	4月3日	新採用者 (看護師)	61名	60分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
5	4月5日	新採用者 異動者 (事務職員・事務補佐員・言語聴覚士・作業療法士・臨床工学技師・薬剤師・外注職員アビリティ・ニチイ・文教)	17名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
6	4月16日	新採用者 (看護補助者)	39名	25分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
7	4月18日	リスクマネジャー	8名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
8	4月18日	新採用者 (医師)	10名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
9	5月7日	復帰者(看護師)	11名	40分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
10	5月7日	昇任者 (副師長)	4名	40分	講義 「医療安全(・医療事故防止対策・事故発生時の対応)」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
11	5月15日	新採用者 (調理師・薬剤師・臨床検査技師・事務員・事務補佐員・外注職員ニチイ)	11名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
12	5月22日	全職員	699名 (703名)	60分	講義 「高難度新規医療技術等評価部の紹介」 「インフォームド・コンセント整備について -2016年特定機能病院承認要件への対応として-」 「平成29年度検集集計報告 ・院内緊急体制・中心静脈カテーテル挿入関連」 「平成29年度インシデントレポート報告」 「平成29年度プレアボイド報告分析」
					講師 医療安全管理部 門脇医療安全管理部長・舛形GRM・村上GRM・朝倉GRM・松本GRM
	5月29,31日	全職員 (ビデオ上映会)	433名 (443名)	60分	
13	6月5日	復帰者(看護師)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
14	6月5日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
15	6月12日	全職員	709名 (713名)	60分	講義 「院内における薬剤耐性菌対策-抗菌薬の適正使用と感染予防策-」 「ウイルス性肝炎と肝炎受動勧奨システムの運用について」
					講師 薬剤部 感染制御認定薬剤師 山口・佳津騎 感染制御部 感染対策室 感染管理認定看護師 間嶋 由美子 消化器・神経内科学 教授 正木 勉
					6月20,26日

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容	
16	新採用者 初期安全研修	6月14日	新採用者 (栄養士・事務補佐員・外注 職員ニテイ)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
17	新リスクマネジャー研修	6月19日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
18	復帰者安全研修	7月9日	復帰者(看護師)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
19	新採用者 初期安全研修	7月9日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
20	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	6月15日～ 7月15日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
21	新リスクマネジャー研修	7月17日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
22	復帰者安全研修	8月1日	復帰者(看護師)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
23	新採用者 初期安全研修	8月1日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
24	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	7月3日～ 8月3日	新採用者 (医師)	2名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
25	新採用者 初期安全研修	8月7日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
26	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	7月19日～ 8月20日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義「2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
27	新リスクマネジャー研修	8月28日	リスクマネジャー	1名	15分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
28	復帰者安全研修	9月4日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
29	新採用者 初期安全研修	9月4日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
30	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	8月6日～ 9月6日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
31	新採用者 初期安全研修 (e-learningによる研修)	8月21日～ 9月21日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 2016年特定機能病院における医療安全対策強化のための承認要件の見直しへの対応「」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM
32	安全管理研修(講義)	9月25日	全職員	695名 (701名)	60分	講義 「医療事故対応と対応からの学び」 講師 京都大学医学部附属病院 医療安全管理室室長 医療安全学 教授 松村 由美
		10月1～ 3日	全職員 (ビデオ上映会)	355名 (367名)	60分	
33	新採用者 初期安全研修	9月27日	新採用者 (事務補佐員)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
34	復帰者安全研修	10月2日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
35	新採用者 初期安全研修	10月2日	新採用者 (看護補助者)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
36	新採用者 初期安全研修	10月31日	新採用者 (事務補佐員・外注職員ニテ イ、技能補佐員)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM
37	復帰者安全研修	11月2日	復帰者(看護師)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 松本専任RM

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
38	10月5日～ 11月9日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
	10月9日～ 11月9日	新採用者 (医師)	0名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
39	11月5日～ 12月5日	新採用者 (医師)	1名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
40	11月15日 ～12月14 日	新採用者 (医師)	2名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
41	11月22,26 日	医師、看護師、放射線技師	395名	60分	講義 「医療ガスに係る安全管理のための職員研修」
					講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)高松事業所 所長 荒木聖文
42	11月20日	全職員(事務系職員・調理師・看護補助者除く)	595名 (596名)	60分	講義 <放射線> 「放射線部領域の安全管理」 <診療情報> 「診療録の記載について」
					講師 <放射線> 放射線部 副部長 木村 成秀 <診療情報> 診療情報管理室長 横井 英人
43	12月3日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
44	1月7日	復帰者(看護師)	2名	31分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
45	1月8日～ 2月8日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
46	1月10日	新採用者 (事務補佐員・技術補佐員)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
47	1月11日	新採用者 (看護補助者)	4名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
48	1月22日 1月29,31 日 2月1日	全職員 (ビデオ上映会)	627名 (633名) 420名 (344名)	60分 60分	講義 「Antimicrobial Stewardship Program(ASP)の成果」
					講師 岐阜大学医学部附属病院 副病院長 生体支援センター長 村上 啓雄
49	2月5日	新採用者 (看護補助者)	1名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
50	2月12日	新採用者 (事務補佐員、外注職員ニチ イ)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
51	2月13日～ 3月15日	新採用者 (医師)	3名	15分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM
52	2月19日 2月27日 3月4日	附属病院で診療に従事する全職員 (事務系職員・調理師は除く・医事課・医療支援課は含む)	583名 (590名) 335名 (346名)	60分 60分	講義 「術後痛治療の安全管理」 「医学部・附属病院の情報セキュリティ」 「AEDの日常点検と使用方法」
					講師 麻酔・ペインクリニック科 山上 有紀 診療情報管理室長 横井 英人 フクダ電子四国販売(株) 納田 和也
53	3月1日	復帰者(看護師)	3名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM
54	3月14日	新採用者 (看護補助者)	2名	30分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」
					講師 医療安全管理部 松本専任RM

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

香川大学医学部附属病院長選考基準

【求められる資質及び能力】

1. 医師免許を有している者
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
3. 病院の管理運営上必要な資質・能力を有している者
4. 教育研究及び診療に対する熱意と優れた業績を有している者

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・無）

- ・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ

(<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/ByouintyouSenkou/>)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ((有)・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/ByouintyouSenkou/) 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
真鍋 光輝	理事・副学長(総務・労務担当)	○	学長が指名する理事	(有)・無
上田 夏生	医学部長		役職指定	(有)・無
村尾 孝児	医学部教授(内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学)		学長が指名する医学部又は医学部附属病院の教職員	(有)・無
山本 哲司	医学部教授(整形外科)		学長が指名する医学部又は医学部附属病院の教職員	(有)・無
安藤 照文	香川県健康福祉部長		学外の有識者：香川県の保険医療に係る責任者として、豊富な経験と高い識見を有している	有・(無)
小西 久典	香川県医師会副会長・医療法人社団小西耳鼻咽喉科医院長		学外の有識者：香川県医師会副会長として、医学・医療について豊富な経験と高い識見を有している	有・(無)
千葉 昭	四国電力株式会社取締役会長		学外の有識者：香川大学経営協議会の委員であり、企業経営について、幅広く豊富な経験と高い識見を有している	有・(無)

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の運営に関する重要事項を審議 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院の院内Webにて議事要旨を周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法：香川大学ホームページ (https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_taikei/r_taikei_16.html) ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙⑥のとおり			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：香川大学ホームページ
(https://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_taikei/r_taikei_16.html)
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院規程、病院細則で、科長、医長、中央診療施設の長等人事を病院長が任命すると明記
 - ・ 会計職務権限要項で、附属病院の予算関係決裁者が病院長であることを明記
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長（企画・診療担当）：企画・診療を担当する。
 - ・ 副病院長（教育・研究担当）：教育・研究を担当する。
 - ・ 副病院長（経営・評価担当）：経営・評価を担当する。
 - ・ 副病院長（病院再開発・広報担当）：病院再開発・広報を担当する。
 - ・ 副病院長（医療の質管理担当）：医療の質の管理を担当する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
一般社団法人国立大学協会中国・四国地区支部及び国立大学法人山口大学が主催で、平成30年9月20日から9月21日の日程で開催した「平成30年度中国・四国地区国立大学法人病院事務マネジメントセミナー」を4名が受講した。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め、又は必要に応じ実地で確認を行う。 2. 学長又は病院長に対し、必要に応じて、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう求める。 3. 上記の業務についての結果を公表する。 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：香川大学医学部附属病院ホームページ (http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/iryokansa/)</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
太田 吉夫	香川県立中央病院 院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・(無)	1
森脇 正	森脇法律事務所 長・弁護士		法律に関する識見を有するため	有・(無)	1
瓜生 幸子	がん患者会ネット ワーク香川 会長		医療を受ける者の代表者	有・(無)	2
真鍋 光輝	香川大学副学長		学長が必要と認めた者	(有)・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
 - ・国立大学法人香川大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則等を制定
 - ・コンプライアンス推進のための活動方策・更新及び実施

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法：香川大学ホームページ (<https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance/index.html>)

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

<p>開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 会議体は、学長、学長が指名する理事及び職員、大学の役員又は職員以外の者で大学に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、教育研究評議会の意見を聴いて学長が任命する者で構成された、香川大学経営協議会において、「予算の作成及び執行並びに決算に関する事項」や「組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項」等の大学法人の経営に関する重要事項を審議する。 ・ 会議体の実施状況（ 年5回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年5回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法：香川大学ホームページ (https://www.kagawa-u.ac.jp/public/15525/proceedings_summary/council/#29)
--

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人香川大学経営協議会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
笥 善行	学長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
山下 明昭	理事<教育担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
片岡 郁雄	理事<研究・産官学連携・教員評価担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
舟橋 徹	理事<企画・評価・広報担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
真鍋 光輝	理事<総務・労務担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
川池 秀文	理事<財務・施設担当>		<input checked="" type="radio"/> 有・無
金子 元久	筑波大学特命教授・東京大学名誉教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
神余 隆博	関西学院大学国連・外交統括センター長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
田中 壮一郎	前(独)国立青少年教育振興機構理事長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
千葉 昭	四国電力(株)取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
西原 義一	香川県副知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
藤岡 実佐子	帝國製薬(株)代表取締役社長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
渡邊 智樹	百十四銀行代表取締役会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年〇件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法 : 香川大学ホームページ (<https://www.kagawa-u.ac.jp/compliance/index.html>)

氏名	委員長	職種	役職
横見瀬 裕保	○	医師	病院長
門脇 則光		医師	副病院長 (企画・診療担当) 血液内科長 医療安全管理部長 高難度新規医療技術等評価部長
横井 英人		医師	副病院長 (教育・研究担当) 診療情報管理室長 臨床研究支援センター長 臨床教育研修支援部長 臨床教育研修管理室長
星川 広史		医師	副病院長 (経営・評価担当) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
日下 隆		医師	副病院長 (病院再開発・広報担当) 小児科長 遺伝子診療部長
豊嶋 克美		看護師	副病院長 (医療の質管理担当) 看護部長 ワーク・ライフ・バランス支援室長
村尾 孝児		医師	内分泌代謝内科長 検査部長 糖尿病センター長 先端医療開発センター長
土橋 浩章		医師	膠原病・リウマチ内科長
石井 知也		医師	呼吸器内科長
南野 哲男		医師	循環器内科長 抗加齢血管内科長 心臓血管センター長
祖父江 理		医師	腎臓内科長
正木 勉		医師	消化器内科長 内視鏡診療部長 臨床栄養部長
出口 一志		医師	神経内科長
舩形 尚		医師	総合内科長 総合地域医療連携センター長
辻 晃仁		医師	腫瘍内科長 がんセンター長
窪田 泰夫		医師	皮膚科長 感染制御部長 感染対策室長
中村 祐		医師	精神科神経科長 子どもと家族・こころの診療部長
秦 利之		医師	周産期科女性診療科長 女性外来診療部長
堀井 泰浩		医師	心臓血管外科長 材料部長
鈴木 康之		医師	消化器外科長 医師キャリア支援センター長

病院運営委員会委員一覧 (H30年度)

別紙⑥

氏名	委員長	職種	役職
横見瀬 裕保		医師	呼吸器外科長
紺谷 桂一		医師	乳腺内分泌外科長 外来化学療法室長
下野 隆一		医師	小児外科長
山本 哲司		医師	整形外科長
杉元 幹史		医師	泌尿器・副腎・腎移植外科長
田宮 隆		医師	脳神経外科長 高次脳機能障害外来診療部長 脳卒中診療部長
廣岡 一行		医師	眼科長
西山 佳宏		医師	放射線診断科長 放射線部長
柴田 徹		医師	放射線治療科長
白神 豪太郎		医師	麻酔・ICU内科科長 集中治療部長 ME機器管理センター長
永竿 智久		医師	形成外科・美容外科長
羽場 礼次		医師	病理診断科長
加地 良雄		医師	リハビリテーション科長
三宅 実		医師	歯・顎・口腔外科長
臼杵 尚志		医師	手術部長
芳地 一		医師	薬剤部長
黒田 泰弘		医師	救命救急センター長
窪田 良次		医師	HIV・AIDS対策室長
松原 修司		医師	卒後臨床研修センター長 地域医療教育支援センター長
白川 博章		事務	事務部長

再掲

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	①・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 評価日：2019年9月2日～2019年9月4日 認定期間：2019年5月2日～2024年5月1日（更新審査中）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページや、本院の高度な医療を紹介した書籍の出版により、本院の診療機能を広く発信している。 医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」を定期的を開催し、その内容をホームページやケーブルテレビで放映するなど、本院が提供している最新医療の情報を地域に発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 救命救急センターと各診療科が連携し、多発外傷、脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷等、緊急性の高い重症救急疾患に対する高度な専門的医療を総合的に実施している。 手術、放射線、化学療法及び緩和医療の各専門医等からなるがんセンターボードを設け、がん患者の症状、状態に応じた最適な治療方針を作成している。	